

令和7年度畜産経営技術高度化促進事業

畜産経営診断結果集積

令和8年3月

公益社団法人鹿児島県畜産協会

は し が き

畜産をめぐる情勢は、海外からの訪日客数がコロナ禍以前の水準を上回り過去最多となり、インバウンド需要の回復により外食向けの消費が増加する中、生産基盤の弱体化等から生産量が減少したことなどもあり、畜産物価格は概ね堅調に推移し、肉用牛の一部畜種を除いて経営安定対策の発動はありませんでした。

一方で、ロシア・ウクライナ問題や中東情勢・日中関係の悪化など、国際情勢は予断を許さない状況にあり、飼料や燃料等の生産資材価格の高止まりにより、畜産農家経営は依然として厳しい環境下にあります。

また、家畜衛生について、国内では、高病原性鳥インフルエンザが昨年10月の発生以降各地で散発し、豚熱については昨年度の農場での発生は3件に収まったものの、野生イノシシでの発生は続いており、本県においても昨年11月以降散髪している状況にあります。

また、生産者の減少等による生産基盤の脆弱化や、地球温暖化等の環境問題により、将来にわたる畜産物の安定的な供給は危ぶまれ、持続可能な畜産が求められています。

このような中、本県においても畜産経営の健全な発展と畜産物の安心・安全の確保を図るために、生産性向上対策や環境保全対策及び消費者との交流等、より一層の推進が重要となっています。

当協会は、県の委託事業である「畜産経営技術高度化促進事業」を通じて、個別指導や地域支援指導を実施するとともに、地域の実態に即した助言指導や情報提供等により、地域に根ざした足腰の強い畜産経営体の育成に努めているところです。

また最近では、経営支援システムの活用による生産農家や指導機関への情報提供に努めながら、経営診断や改善指導を強化に取り組んでいます。

今回、令和7年度に実施した支援指導事例について、分析結果をとりまとめましたので、今後の経営指導の参考としてご活用くだされば幸いです。

なお、事業実施にあたり、現地における調査、診断指導にご協力いただきました関係機関・団体の方々に心から感謝申し上げます。

令和8年3月

公益社団法人鹿児島県畜産協会
代表理事会長 柚木 弘文

————— 目 次 —————

肉用牛繁殖経営診断の概要	頁
I 本県肉用牛繁殖経営の概況	1
II 経営診断の方法	1
III 経営診断事例の概要	2
IV 経営診断分析結果の概要	3
V 診断分析結果にみる課題・対策	9
子牛育成飼料給与マニュアル(R7.11月改訂)	15
表 経営の規模	19
収益性及び生産技術	20
損益計算書(成雌牛常時1頭当り)	22
損益計算書(子牛出荷1頭当り)	24
生産費用(成雌牛常時1頭当り)	26
生産費用(子牛出荷1頭当り)	28
貸借対照表	30
所得別、規模別の損益計算書(成雌牛常時1頭当り)	32
所得別、規模別の損益計算書(子牛出荷1頭当り)	33
原価別、規模別の生産費用(成雌牛常時1頭当り)	34
原価別、規模別の生産費用(子牛出荷1頭当り)	35
勘定科目	36
平成27～令和6年度経営診断結果の推移	37
酪農経営診断の概要	頁
I 本県酪農の概況	41
II 経営診断の方法	42
III 経営診断事例の概要	42
IV 経営診断分析結果の概要	44
V 診断分析結果にみる課題・対策	49
表 酪農経営分析結果1	60
酪農経営分析結果2	61
酪農経営分析結果3	62

損益計算書(経産牛 1 頭当り)	63
損益計算書(牛乳 100 kg 当り)	64
生産費用(経産牛 1 頭当り)	65
生産費用(牛乳 100 kg 当り)	66
勘定科目	67
平成 27～令和 6 年度経営診断結果の推移	68
バークシャー種一貫経営診断の概要	頁
I 本県養豚の概況	71
II 経営診断の方法	71
III 経営診断事例の概要	71
表 経営の規模	72
実績分析結果	73
生産費用	75
損益計算書	76
貸借対照表	77
勘定科目	79
参考資料 令和 7 年度雑誌等掲載文書	頁
経営改善に寄与する畜産コンサルタントの役割	81
－鹿児島県における経営診断を例に－	
地域に根ざした生産性向上を図る家族経営	87
－令和 7 年度全国優良畜産経営管理技術発表会－	

肉用牛繁殖経営診断の概要

I 本県肉用牛繁殖経営の概況

近年の肉用牛繁殖経営は、円安等の影響による飼料費など生産資材費の高騰に加え、生活防衛意識の高まりに伴う消費の減退や枝肉価格の低迷を受け、子牛価格が下落を余儀なくされてきた。しかし、直近ではコロナ禍前の水準まで回復の兆しをみせている。

令和6年の本県の畜産統計（令和7年2月1日現在）によると、肉用牛繁殖経営戸数は前年より490戸減の5,070戸（対前年比91.2%）、飼養頭数は、120,800頭（同98.1%）となっている。

II 経営診断の方法

経営診断の分析方法は、個別経営諸表作成支援システム（公益社団法人中央畜産会）の肉用牛経営分析システム版を利用し、対象農家から提出された経営記録簿、家畜台帳、税務申告書および農協等の購買品供給明細書等に基づき、実績データを整理・分析した。

分析の前提条件として、家族労働費は時間単価1,937円、1人当たり年間労働時間は2,000時間を基準とした。減価償却費の算出には定額法を採用した。また、期中成牛仕向振替額（費用から控除する育成費）については、該当牛の初回授精時までに投下された費用（導入価額＋飼養費）を計上した。

令和7年度に実施した肉用牛繁殖経営（以下「繁殖経営」）の診断件数は、畜産経営技術高度化促進事業（以下「高度化」）の対象が26件、畜産特別資金等推進指導事業（以下「畜特」）の対象が20件、計46件である。

調査期間は原則として令和6年1月1日から同年12月31日の1年間で、法人経営はそれぞれの会計期間（以下「令和6年」）とした。また、比較のために令和5年の集積結果を併記したが、令和6年と5年では診断農家の一部異なる。

費用の科目は、（肉用牛）付表1の勘定科目を基準にした。

Ⅲ 経営診断事例の概要

経営診断を実施した経営体のうち、集計対象とした 38 件（高度化 20 事例、畜特 18 事例）の分析結果は以下のとおりである。

1 経営の規模

成雌牛の平均飼養頭数は、全体平均 58.0 頭で、前年平均 62.5 頭から 4.5 頭減少した。事業別では高度化 67.4 頭、畜特 47.6 頭であった。

子牛出荷頭数は、全体平均 45.1 頭で、成雌牛平均飼養頭数に対する出荷率は 77.4%（前年 75.4%）と前年を上回った。事業別では高度化が出荷頭数 54.7 頭（出荷率 79.8%）、畜特は出荷頭数 34.4 頭（出荷率 74.8%）であった。

表 1 飼養頭数及び子牛出荷頭数

項目	単位	全体平均		高度化	畜特
		令和 6 年	令和 5 年		
成雌頭数	頭	58.0	62.5	67.4	47.6
子牛出荷頭数	頭	45.1	47.6	54.7	34.4
子牛出荷率	%	77.4	75.4	79.8	74.8

2 自給飼料生産基盤

飼料生産利用面積は、全体平均 18.9ha で、前年の 17.7ha から 1.2ha 増となった。事業別では高度化 21.1ha、畜特 16.5ha であった。また、成雌牛 1 頭当たりの利用面積は、全体平均 0.33ha となった。事業別では高度化 0.31ha、畜特 0.35ha であった。

表 2 飼料生産面積

項目	単位	全体平均		高度化	畜特
		令和 6 年	令和 5 年		
飼料生産利用面積	ha	18.9	17.7	21.1	16.5
成雌 1 頭当り面積	ha/頭	0.33	0.30	0.31	0.35

3 家族、雇用状況および労働投下状況

家族労働人数は、全体平均 2.1 人（前年比 0.1 人減）となった。事業別では高度化 2.2 人、畜特 2.0 人であった。

家族労働時間は、全体平均 4,216 時間で前年より 188 時間減少した。事業別では高度化 4,479 時間、畜特 3,925 時間であった。

常雇人数は全体平均が 0.3 人で、高度化 0.4 人、畜特 0.2 人であった。

本県の労働投下状況は家族労働力が主体となっているが、調査事例のうち 6 事例で常時雇用が導入されていた。規模別の導入事例では、50 頭規模以下および 200 頭以上規模では 0 事例であったが、51～100 頭規模で 2 事例、101～200 頭規模で 4 事例であった。

表 3 労働投下状況

項目	単位	全体平均		高度化	畜特
		令和 6 年	令和 5 年		
家族労働人数	人	2.1	2.2	2.2	2.0
家族労働時間	時間	4,216	4,404	4,479	3,925
常雇人数	人	0.3	0.3	0.4	0.2

IV 経営診断分析結果の概要

経営診断の結果については、「生産技術」「収益性」「安全性」の 3 つの観点から、全体平均、前年平均、ならびに「高度化」「畜特」の事業別に比較・検討を行った。

1 生産技術

生産技術は子牛育成技術、繁殖技術、飼料生産技術および労働投下について検討した。

(1) 雌子牛の育成技術

出荷日齢は、全体平均 273 日（251～301 日）で、前年を 2 日上回った。事業別では高度化 274 日、畜特 272 日であった。

出荷体重は、全体平均 273 kg（221～310 kg）で、前年比 5 kg

増となった。事業別では高度化 273 kg、畜特 274 kgであった。

日齢体重は、全体平均 1.002 kg（0.795～1.152 kg）で、前年と同等で推移した。事業別では高度化 0.999 kg、畜特 1.006 kgであった。

1頭当り販売価格は、全体平均 446,159 円（300,438～590,563 円）で、前年から 35,107 円の下落となった。事業別では、高度化 441,744 円、畜特 451,064 円であった。

（2）去勢子牛の育成技術

出荷日齢は、全体平均 268 日（244～291 日）で、前年より 3 日長くなった。事業別では高度化 270 日、畜特 267 日であった。

出荷体重は、全体平均 297 kg（266～344 kg）で、前年比 2.6 kg 増となった。事業別では高度化 299 kg、畜特 294 kgであった。

日齢体重は、全体平均 1.106 kg（1.007～1.237 kg）で、前年と同等で、事業別では高度化 1.109 kg、畜特 1.102 kgであった。

1頭当り販売価格は、全体平均 577,572 円（414,950～696,483 円）で、前年より 32,337 円下落した。事業別では高度化 572,813 円、畜特 582,860 円であった。

表 4 子牛出荷成績

項目	単位	全体平均		高度化	畜特	
		令和 6 年	令和 5 年			
雌	出荷日齢	日	273	271	274	272
	出荷体重	kg	273	268	273	274
	日齢体重	kg / 日	1.002	0.992	0.999	1.006
	販売価格	円	446,159	481,266	441,744	451,064
去勢	出荷日齢	日	268	265	270	267
	出荷体重	kg	297	294	299	294
	日齢体重	kg / 日	1.106	1.110	1.109	1.102
	販売価格	円	577,572	609,909	572,813	582,860

(3) 繁殖技術

平均分娩間隔は、全体平均 12.9 か月（11.8～15.5 か月）となり、前年と同水準で推移した。事業別では高度化 12.7 か月、畜特 13.2 か月であった。

(4) 飼料生産

成雌牛 1 頭当り飼料生産利用延べ面積は、全体平均 33.0a（0.0～110.3a）で前年を上回った。事業別では高度化 31.1a、畜特 35.2a となった。

(5) 投下労働

労働力 1 人当りの成雌牛飼養頭数は、全体平均 24.1 頭（10.2～50.1 頭）となり、前年から 1.2 頭減少した。事業別では高度化 26.5 頭、畜特 21.5 頭であった。

成雌牛 1 頭当り投下労働時間は、全体平均 98.7 時間（39.3～198.0 時間）となり、前年と同水準で推移した。事業別では高度化 93.9 時間、畜特 104.0 時間であった。

表 5 分娩間隔、飼料生産面積、投下労働

項目	単位	全体平均		高度化	畜特
		令和 6 年	令和 5 年		
分娩間隔	か月	12.9	12.9	12.7	13.2
成雌 1 頭当たり飼料生産利用延べ面積	a	33.0	29.6	31.1	35.2
労働力 1 人当たり成雌飼養頭数	頭	24.1	25.3	26.5	21.5
成雌 1 頭当り投下労働時間	時間	98.7	99.0	93.9	104.0

2 収益性

収益性については、損益計算書および生産費用に基づき、所得状況、子牛出荷1頭当りの損益、ならびに生産費用の観点から検討を行った。

(1) 所得について

所得総額は、全体平均-963千円(-13,646～9,749千円)となり、前年より523千円改善された。事業別では高度化470千円、畜特-2,555千円であった。

家族労働力1人当り年間所得は、全体平均-561千円(-6,823～5,131千円)となり前年より339千円改善された。事業別では高度化66千円、畜特-1,259千円であった。

成雌牛常時1頭当り年間所得は、全体平均-17,460円(-221,957～143,337円)で、前年を319円下回った。事業別では高度化4,336円、畜特-41,677円であった。

子牛出荷1頭当り所得は、全体平均-27,911円(-340,343～212,365円)で、前年より806円改善された。事業別では高度化4,538円、畜特-63,964円であった。

所得率は、全体平均-6.3%(-73.8～33.7%)となり、前年を0.4ポイント下回った、事業別では高度化-0.1%、畜特-13.2%であった。

表 6 所得

項目	単位	全体平均		高度化	畜特
		令和5年	令和4年		
所得総額	千円	-963	-1,486	470	-2,555
家族労働力1人当り年間所得	千円	-561	-900	66	-1,259
成雌牛常時1頭当り年間所得	円	-17,460	-17,141	4,336	-41,677
子牛出荷1頭当り所得	円	-27,911	-28,717	4,538	-63,964
所得率	%	-6.3	-5.9	-0.1	-13.2

(2) 子牛出荷 1 頭当り損益について

売上高は、全体平均 524,251 円(389,950～663,892 円)となり、前年より 31,125 円下回った。事業別では高度化 520,995 円、畜特 527,869 円であった。

売上原価は、全体平均 851,450 円(600,893～1,468,490 円)となり、前年より 25,050 円増加した。事業別では高度化 794,223 円、畜特 915,034 円であった。

経常利益は、全体平均 -264,061 円(-710,310～38,522 円)となり、前年より 12,532 円下落した。事業別では高度化 -212,049 円、畜特 -321,853 円であった。

表 7 子牛出荷 1 頭当り損益

項目	単位	全体平均		高度化	畜特
		令和 6 年	令和 5 年		
売上高	円	524,251	555,376	520,995	527,869
売上原価	円	851,450	826,400	794,223	915,034
経常利益	円	-264,061	-251,529	-212,049	-321,853

(3) 子牛出荷 1 頭当り生産費用について

生産費用の内訳は、購入飼料費 282,605 円、減価償却費 164,060 円、労働費 249,609 円となっており、これらの 3 費用で費用全体の約 8 割を占めている。前年との比較では、購入飼料費が 10,816 円減少したものの、減価償却費は 9,228 円、労働費は 17,646 円それぞれ増加した。特に労働費の増加については、家族労働費の時間単価を前年の 1,843 円から 1,937 円に改定したことが大きく影響している。

総原価は、全体平均 956,357 円(656,497～1,689,876 円)となり、前年を 23,964 円上回った。事業別では高度化 889,718 円、畜特 1,030,401 円であった。

子牛 1 頭 1 日当りの飼養費は、全体平均 1,056 円(821～1,602

円)で、前年に比べ21円増加した。事業別では高度化1,017円、畜特1,099円であった。

表 8 子牛出荷1頭当り費用 (単位:円、%)

項目	全体平均		高度化	畜特
	令和6年(率)	令和5年		
購入飼料費	282,605(31.6)	293,421	271,618	294,812
減価償却費	164,060(18.3)	154,832	149,594	180,133
労働費	249,609(27.9)	231,963	229,818	271,598
その他	197,701(22.2)	208,902	179,873	217,512
費用合計	893,975(100)	889,118	830,903	964,055
総原価*	956,357	932,393	889,718	1,030,401
子牛の1頭1日 当り飼養費**	1,056	1,035	1,017	1,099

*総原価 = 生産原価 + 販売・一般管理費 + 営業外費用

**子牛の1頭1日当り飼養費 = A + B

A = [生産費用合計 - (種付料 + 家族労働費 + 家畜の減価償却費)] ÷ 飼養のべ日数

B = (種付料 + 家畜の減価償却費) ÷ 子牛の飼養延べ日数

3 安全性

安全性の分析については、貸借対照表に基づき、期末時点における資産・負債・資本の状況を検討した。

(1) 売上高負債比率

売上高負債比率は、全体平均192.2%(0~818.0%)で、前年から51.6ポイント上昇した。事業別では高度化147.0%、畜特242.4%であった。

(2) 売上高償還額比率

売上高償還額比率は、全体平均19.4%(0~176.0%)で、前年

より 3.6 ポイント上昇した。事業別では高度化 12.6%、畜特 26.9%であった。

(3) 売上高支払利息比率

売上高支払利息比率は、全体平均 2.1% (0~13.8%) で、前年より 1.0 ポイント上昇した。事業別では高度化 1.0%、畜特 3.3%であった。

(4) 成雌牛 1 頭当り借入金残高

成雌牛 1 頭当り借入金残高は、全体平均 731,310 円 (0~2,292,807 円) で、前年を 146,348 円上回った。事業別では高度化 569,384 円、畜特 911,229 円であった。

表 9 安全性に関する項目

項目	単位	全体平均		高度化	畜特
		令和 6 年	令和 5 年		
売上高負債比率 ¹⁾	%	192.2	140.6	147.0	242.4
売上高償還額比率 ²⁾	%	19.4	15.8	12.6	26.9
売上高支払利息比率 ³⁾	%	2.1	1.1	1.0	3.3
成雌牛 1 頭当り借入金残高 ⁴⁾	円	731,310	584,962	569,384	911,229

¹⁾ 売上高負債比率 = 期末負債 ÷ 売上高、²⁾ 売上高償還額比率 = 年償還額 ÷ 売上高、³⁾ 売上高支払利息比率 = 支払利息 ÷ 売上高、⁴⁾ 成雌牛 1 頭当り借入金残高 = 期末借入金残高 ÷ 成雌牛頭数

V 経営分析結果にみる課題・対策

1 生産技術の改善について

経営規模に応じた分析を行うため、成雌牛飼養頭数に基づき、「30 頭未満 (以下、小規模)」「30 頭以上 60 頭未満 (以下、中規模)」「60 頭以上 (以下、大規模)」の 3 カテゴリーに分類した (表 10)。分析対象は、小規模 9 件、中規模 17 件、大規模 12 件の計 38 件である、

各層の成雌牛平均飼養頭数は、それぞれ 25.5 頭、41.7 頭、105.6 頭であった。

(1) 繁殖技術について

平均分娩間隔は、全体平均 12.9 か月（前年 12.9 か月）であった（表 10②）。内訳を見ると、12 か月未満は 10.5%にとどまり、12～13 月未満が 47.4%、13～14 か月未満が 28.9%、14 か月以上が 13.2%となっている。全体の 4 割以上の農家が年 1 産を達成していない。

繁殖経営において、子牛をできる限り多く生産することは、出荷頭数および自家保留頭数の確保に直結し、経営安定には不可欠である。そのため、繁殖技術の向上に注力することが極めて重要である。具体的には、繁殖記録の徹底、飼養環境の整備、飼料給与（栄養管理）の適正化、および日々の行動観察方法を再点検する必要がある。そのうえで、的確な妊娠鑑定の実施や不妊牛への早期治療など、個々の課題解決に積極的に取り組むことが求められる。

表 10 規模別の生産技術及び収益性

項目		全体平均 (38 事例)	小規模 ¹⁾ (9 事例)	中規模 ²⁾ (17 事例)	大規模 ³⁾ (12 事例)	
① 成雌牛飼養頭数 (頭)		58.0	25.5	41.7	105.6	
② 分娩間隔 (日)		12.9	12.8	13.2	12.7	
③ 子牛出荷率 (%)		77.4	80.9	74.9	78.4	
④ 子牛事故率 (%)		3.0	2.7	3.2	3.0	
⑤ 出 荷	雌					
		日齢体重 (kg)	1.002	0.992	1.000	1.013
		販売価格 (円)	446,159	465,408	431,513	452,469
	去					
	日齢体重 (kg)	1.106	1.089	1.108	1.114	
	販売価格 (円)	577,572	603,366	559,851	583,332	
⑥ 飼料畑成雌牛 1 頭当り面積 (a)		33.0	35.2	32.4	32.4	

⑦ 成雌牛 1 頭当り投下労働時間 (時間)	98.7	135.6	96.3	74.3
⑧ 子牛出荷 1 頭当り売上高 (円)	524,251	538,222	509,040	535,322
⑨ 販売子牛 1 頭当り生産原価 (家族労働費を除く) (円)	611,829	626,493	595,479	623,992
⑩ 所得率 (%)	-6.3	2.5	-13.2	-3.2
⑪ 成雌牛 1 頭当り借入金残高 (円)	731,310	864,427	871,348	433,087

1) 小規模：成雌牛 30 頭未満、2) 中規模：成雌牛 30～60 頭未満、3) 大規模：成雌牛 60 頭以上

(2) 子牛育成技術について

子牛出荷率(表 10③)は、小規模層が最も高く、次いで大規模、中規模の順であった。子牛事故率(表 10④)は、中規模層が高く、次いで大規模、小規模の順に低くなった。また、日齢体重および販売価格においても、中規模層が低い傾向にあった(表 10⑤)。

繁殖経営は、「いかに元気に生まれ、発育良く健康に育てあげるか」という商品性の高い子牛の出荷にかかっている。資質の高い子牛を育成するためには、適正な交配計画、飼養環境の整備、栄養管理(飼料給与)、および日々の細やかな行動観察を改めて再点検し、個々の管理技術の改善に取り組むことが必要である。

(3) 飼料生産利用技術について

飼料作物の栽培状況は、全く栽培していない経営から成雌牛の粗飼料は全量確保できる経営まで、経営間の差が非常に大きい。飼料畑成雌牛 1 頭当り面積は、経営規模が拡大するに従い縮小する傾向にあり(表 10⑥)、頭数に見合った飼料畑の確保が急務といえる。

繁殖経営におけるコスト低減の観点から、自給飼料の生産拡大や未利用資源の利活用が重要である。さらに、購入飼料については強いコスト意識を持ち、繁殖ステージや「子牛育成飼料給与マニュアル」に準拠した給与を徹底する必要がある。子牛の発育段

階に応じた適切な飼料給与に加え、飼槽の状態を詳細に観察して残飼を減らすなど、無駄のない適正給与に努めることが求められる。

2 管理技術の改善について

(1) 哺乳管理

早期離乳・人工哺乳の本来のメリットである繁殖成績の改善やバラツキのない子牛発育が十分に達成されていない事例が散見される。これには労働負担の増加や哺乳管理技術の習得といった課題があると考えられる。今後は鹿児島県肉用牛振興協議会の「人工哺育マニュアル」等を参考に、各経営の問題点を精査し、着実な改善を図る必要がある。

(2) 衛生・疾病対策

子牛の事故や疾病の主な要因として、飼養衛生管理の不徹底や観察不足などが考えられる。消毒の徹底、適正なワクチネーションによる疾病予防、さらには飼養密度や敷料の状態など飼養環境の改善化が不可欠である。特に観察の徹底による「早期発見・早期治療」は重要である。

(3) 自衛防疫意識の向上

「自らの家畜は自らが守る」という自衛防疫の原則を再認識する必要がある。病原菌等の農場内への侵入防止のため飼養衛生管理基準を遵守した強固な防疫体制の構築が求められる。

(4) 母牛群の計画的な更新

生産性の維持向上には、計画的な母牛更新が必要である。繁殖記録の管理を徹底し、「一定の期間受胎しない場合は更新する」などの基準を設定し、高齢牛や低能力牛は計画的に淘汰するなど早めの対応が必要である。

(5) 投下労働

成雌牛1頭当り投下労働時間は、経営規模の拡大に伴い減少する傾向にある(表10⑦)。これは飼養頭数の増加により1頭ごとの観察時間が不足することを示している。家畜飼養においては観察時間の確保は重要であり、特に多忙な農繁期における牛舎内外での作業体系を見直す必要がある。省力化と観察精度の向上を図る対策としてICTの積極的な導入検討が望まれる。

3 収益性の改善について

(1) 売上原価および収益性の状況

子牛出荷1頭当り売上高は、小規模層が最も高かったが、家族労働費を除く販売子牛1頭当り生産原価も小規模層が最も高く、次いで大規模層、中規模層の順となった。所得率についても、小規模層が最も高く、次いで大規模、中規模の順となった(表10⑧～⑩)。

売上原価の内訳は、購入飼料費、労働費、減価償却費および修繕費の4項目が大きな割合を占めている。収益性の向上には、経営記録に基づく徹底した管理を行い、低コストで無駄のない経営体質を構築することが必要である。

(2) 改善のポイント

収益性の改善を実現するためには、「生産技術(特に繁殖技術、子牛育成技術)の改善」と「生産費用の抑制」の両輪で取り組む必要がある。まずは、日々の記録・記帳を通じて自らの経営実態を正確に把握することが肝要である。その上で、明確な目標と計画を策定し、実践し、見直しを図りながら進めていくことが重要である。

4 安全性の改善について

(1) 安全性の状況

成雌牛 1 頭当り借入金残高は中規模層が最も多く、次いで小規模、大規模の順となっている。(表 10⑩)。経営間体の格差は顕著であり、借入金が全くない経営から 1 頭当り 2,200 千円を超える経営まで大きな開きがある。

安全性は負債の規模に大きく左右されるため、まずは毎年安定した収益を確実に確保し、1 頭当りの負債残高を段階的に圧縮していくことが必要である。

(2) 負債の軽減について

制度資金等の借入金を活用する際は、長期的な視点に立った償還計画の策定が不可欠である。予測される収入に見合った年間償還額、利息負担および償還期間を慎重に検討しなければならない。常に負債と資産のバランスや支払能力を客観的に把握し、経営の安全性と継続性の維持に努める必要がある。

子牛育成飼料給与マニュアル(R7.11月改訂)

今回、生時体重の増加に伴いマニュアルの一部改訂を行いました。

～「フレームサイズ」がある、「腹づくり」のできた、「過肥でない」子牛づくりに努めましょう！～
 生後3カ月間が重要、「人工哺乳」や「制限哺乳」に取り組み、えづけ飼料摂取量を高めよう！

子牛育成飼料給与マニュアル

【設計値】えづけ飼料:CP18% TDN75% 育成飼料:CP16% TDN70%
 (～5カ月)パミューダ乾草:CP8.1% TDN49.1% (6カ月～)イタリアン乾草(自給飼料):CP9.7% TDN53.4%

★給与量は目安です。目安体重以上の牛には、濃厚飼料と粗飼料の割合を守り、飽食給与を行い、採食量が不足しないようにしてください。
 ☆CP含量が低い粗飼料を給与すると飼料摂取量が低下するので、粗飼料多給となる6カ月齢以降は給与飼料全体のCP含量を乾物中12%以上にしてください。

去勢	生時体重40kg以上		生時(月)	1	2	3	4	5	6	7	8	出荷目標	☆生時体重が大きい子牛は、増体に優れるため早く出荷できます		
			(日齢)	30	60	90	120	150	180	210	240	240			
勢	1日当たり飼料給与量(原物重, kg)	えづけ飼料		0.1	2.2	3.5			育成飼料のピーク				◎生時体重を推定しましょう →胸囲の測定		
		育成飼料					4.0	4.5	4.5	4.0	3.5				
		良質粗飼料(乾草)		0.015	0.2	0.4	1.6	2.0	3.0	4.0	5.0				
	体高の目安(cm)	77	83	89	95	100	105	110	115	118					
	体重の目安(kg)		40	66	84	120	156	192	231	264	300				
勢	生時体重40kg未満		生時(月)	1	2	3	4	5	6	7	8	出荷目標	胸囲(cm) 推定体重(kg)		
			(日齢)	30	60	90	120	150	180	210	240	260			
	1日当たり飼料給与量(原物重, kg)	えづけ飼料		0.1	1.9	3.0			育成飼料のピーク					77	40
		育成飼料					3.5	4.5	4.5	3.5	3.5	3.5		76	39
良質粗飼料(乾草)			0.015	0.2	0.3	1.3	1.7	2.5	4.0	4.5	5.0	75	38		
	体高の目安(cm)		72	80	85	91	97	102	107	110	114	116	74	36	
	体重の目安(kg)		35	61	76	106	136	172	211	244	277	300	73	35	

めす	生時体重35kg		生時(月)	1	2	3	4	5	6	7	8	出荷目標
			(日齢)	30	60	90	120	150	180	210	240	265
1日当たり飼料給与量(原物重, kg)	えづけ飼料		0.1	1.6	2.7			育成飼料のピーク				
	育成飼料					3.0	4.0	4.0	3.5	3.5	3.5	
	良質粗飼料(乾草)		0.015	0.2	0.3	1.3	1.6	2.0	3.5	4.0	4.5	
	体高の目安(cm)		69	77	84	90	95	100	104	108	111	113
	体重の目安(kg)		35	59	74	101	130	161	193	221	250	270

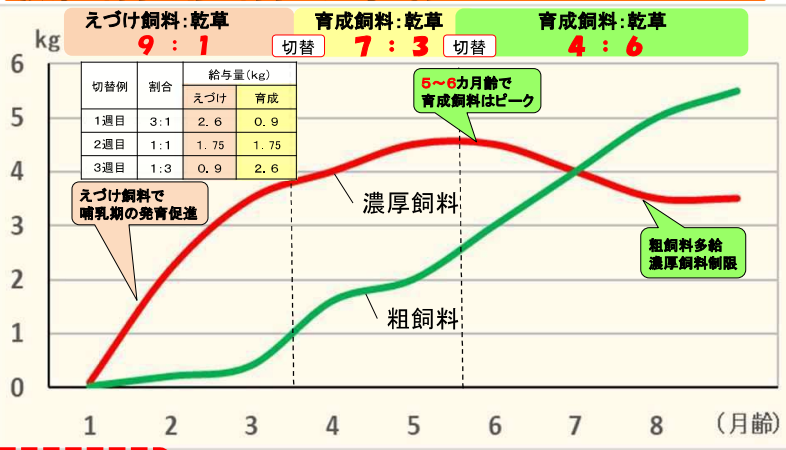
濃厚飼料多給は6カ月齢まで

出荷までは粗飼料多給

生後3カ月齢までの管理ポイント

- ①3日齢から飲水給与
- ②人工哺乳や制限哺乳の実施
- ③7日齢からえづけ飼料給与(固形飼料に慣れさせる)
- ④2カ月齢離乳の実施

濃厚飼料と粗飼料の給与割合 (去勢, 生時体重40kg以上の場合)



重要

生後～3カ月

＜えづけ飼料で子牛の体と第1胃の絨毛の発達＞

人工哺乳や制限哺乳でえづけ飼料摂取量の増加
 制限哺乳:哺乳回数を1日朝夕2回に制限
 スムーズな離乳と母牛の発情回帰にも効果



離乳時、えづけ飼料1日あたり1kg以上摂取でスムーズな離乳



4～5カ月

＜育成飼料多給で骨格の発達＞

えづけ飼料から育成飼料へ切替は3週間かけてゆっくりと
 骨格が最も発達する5～6カ月齢に育成飼料給与最大

6カ月～出荷

＜粗飼料多給で胃袋の発達＞

濃厚飼料多給から粗飼料多給へ切替はゆっくりと
 濃厚飼料を制限し余分な脂肪は付けない ⇒ 増体に優れる牛は早期出荷

えづけ用「混合飼料」の作成方法



3日齢から飲めるよう新鮮な水の準備



頭数に合った飼槽幅と食べやすい高さに調整



飼料給与のポイント

子牛育成飼料給与マニュアル (R7.11月改訂)

★現行マニュアルと改訂版との変更点

- 1 生時体重について
 - (現)去勢(35kg) → (改)去勢(40kg以上, 40kg未満の場合で区分)
 - (現)めす(30kg) → (改)めす(35kg)
- 2 濃厚飼料の給与量のピーク時期について
 - (現)5カ月齢まで → (改)6カ月齢まで
- 3 胸囲測定(去勢)による生時体重の推定を新たに追記
 - ・胸囲77cmの場合 = 推定体重(去勢)は40kg
- 4 生後3カ月齢までの管理のポイントを具体的に記載
 - ・生後3日齢からの飲水給与
 - ・人工哺乳や制限哺乳
 - ・7日齢からのえづけ飼料給与
 - ・2カ月離乳
 - ・えづけ飼料から育成飼料への切替は3週間かけてゆっくりと行う等

飼 料 給 与 早 見 表

日齢 (1~90日) 9 : 1			
えづけ飼料(kg)	粗飼料(kg)	えづけ飼料(kg)	粗飼料(kg)
0.1	0.01	2.6	0.3
0.2	0.02	2.7	0.3
0.3	0.03	2.8	0.3
0.4	0.04	2.9	0.3
0.5	0.06	3.0	0.3
0.6	0.07	3.1	0.3
0.7	0.08	3.2	0.4
0.8	0.09	3.3	0.4
0.9	0.1	3.4	0.4
1.0	0.1	3.5	0.4
1.1	0.1	3.6	0.4
1.2	0.1	3.7	0.4
1.3	0.1	3.8	0.4
1.4	0.2	3.9	0.4
1.5	0.2	4.0	0.4
1.6	0.2	4.1	0.5
1.7	0.2	4.2	0.5
1.8	0.2	4.3	0.5
1.9	0.2	4.4	0.5
2.0	0.2	4.5	0.5
2.1	0.2	4.6	0.5
2.2	0.2	4.7	0.5
2.3	0.3	4.8	0.5
2.4	0.3	4.9	0.5
2.5	0.3	5.0	0.6

日齢 (91~180日) 7 : 3			
育成飼料(kg)	粗飼料(kg)	育成飼料(kg)	粗飼料(kg)
1.0	0.4	3.6	1.5
1.1	0.5	3.7	1.6
1.2	0.5	3.8	1.6
1.3	0.6	3.9	1.7
1.4	0.6	4.0	1.7
1.5	0.6	4.1	1.8
1.6	0.7	4.2	1.8
1.7	0.7	4.3	1.8
1.8	0.8	4.4	1.9
1.9	0.8	4.5	2.0
2.0	0.9	4.6	2.0
2.1	0.9	4.7	2.0
2.2	0.9	4.8	2.1
2.3	1.0	4.9	2.1
2.4	1.0	5.0	2.1
2.5	1.1	5.1	2.2
2.6	1.1	5.2	2.2
2.7	1.2	5.3	2.3
2.8	1.2	5.4	2.3
2.9	1.2	5.5	2.4
3.0	1.3	5.6	2.4
3.1	1.3	5.7	2.4
3.2	1.4	5.8	2.5
3.3	1.4	5.9	2.5
3.4	1.5	6.0	2.6
3.5	1.5		

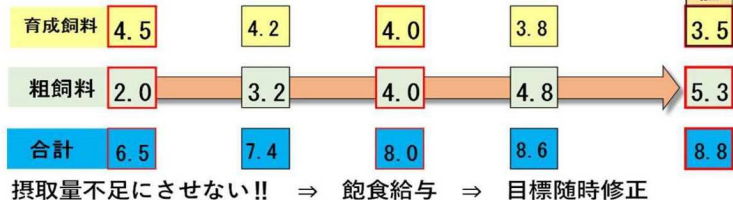
日齢 (181日~) 4 : 6			
育成飼料(kg)	粗飼料(kg)	育成飼料(kg)	粗飼料(kg)
2.0	3.0	4.6	6.9
2.1	3.2	4.7	7.1
2.2	3.3	4.8	7.2
2.3	3.5	4.9	7.4
2.4	3.6	5.0	7.5
2.5	3.8	5.1	7.7
2.6	3.9	5.2	7.8
2.7	4.1	5.3	8.0
2.8	4.2	5.4	8.1
2.9	4.4	5.5	8.2
3.0	4.5	5.6	8.4
3.1	4.7	5.7	8.5
3.2	4.8	5.8	8.7
3.3	5.0	5.9	8.8
3.4	5.1	6.0	9.0
3.5	5.3		
3.6	5.4		
3.7	5.6		
3.8	5.7		
3.9	5.9		
4.0	6.0		
4.1	6.2		
4.2	6.3		
4.3	6.5		
4.4	6.6		
4.5	6.8		

○えづけ飼料3.5kg・粗飼料0.4kg(粗濃比9:1)を育成飼料(粗濃比7:3)に切り替える場合
切替前の合計給与量は、3.9kgなので育成飼料3.9kg・粗飼料1.7kgを目標

	えづけ飼料	育成飼料	粗飼料	合計
切替前	3.5		0.4	3.9
1週目	2.6	0.9	0.7	4.2
2週目	1.75	1.75	0.9	4.4
3週目	0.9	2.6	1.2	4.7
切替後		3.9	1.7	5.6

○180日齢で育成飼料4.5kg・粗飼料2.0kg(粗濃比7:3)を育成飼料(粗濃比4:6)に切り替える場合
切替前の合計給与量は、6.5kgなので切替後に合計給与量が2kg程度増となる育成飼料3.5kg・粗飼料5.3kgを目標

濃厚飼料は、目標まで徐々に減しながら、粗飼料を増→目標が厳しい場合、採食可能みあい量に1回下げ、そこから徐々に増



【肉用牛繁殖經營診斷結果集計表】

表11 経営の規模

区分	単位	全体 (38事例)			高度化事業 (20事例)			畜特事業 (18事例)			R5年 平均		
		平均	最大値	最小値	平均	最大値	最小値	平均	最大値	最小値			
飼養頭数	経産牛	頭	53.1	181.6	18.2	61.5	181.6	23.8	43.8	115.0	18.2	56.5	
	未経産牛	頭	4.9	22.8	0.0	5.9	22.8	0.1	3.8	17.8	0.0	6.1	
	計	頭	58.0	204.4	19.0	67.4	204.4	25.8	47.6	132.8	19.0	62.5	
	子牛	頭	36.0	117.5	12.0	42.7	117.5	15.4	28.6	76.0	12.0	38.9	
	育成牛	頭	2.5	15.0	0.0	2.9	15.0	0.0	2.0	8.3	0.3	2.7	
	子牛出荷頭数	頭	45.1	174.0	15.0	54.7	174.0	22.0	34.4	85.0	15.0	47.6	
	子牛出荷率	%	77.4	91.0	52.1	79.8	91.0	65.6	74.8	90.9	52.1	75.4	
	事故・廃用頭数(成雌牛)	頭	1.1	7.0	0.0	1.2	5.0	0.0	1.0	7.0	0.0	1.0	
	事故率	%	1.7	10.2	0.0	1.9	10.2	0.0	1.5	5.9	0.0	1.9	
	家族人数	人	3.8	7.0	1.0	4.3	7.0	2.0	3.3	5.0	1.0	4.0	
労働状況	家族従事人数	人	2.2	4.0	1.0	2.4	4.0	1.0	1.9	3.0	1.0	2.2	
	うち部門従事人数	人	2.2	4.0	1.0	2.4	4.0	1.0	1.9	3.0	1.0	2.2	
	家族労働人数	人	2.1	3.5	1.0	2.2	3.5	1.0	2.0	3.2	1.1	2.2	
	家族労働時間	時間	4,216	6,935	2,000	4,479	6,935	2,000	3,925	6,420	2,190	4,404	
	常雇	人	0.3	3.6	0.0	0.4	3.6	0.0	0.2	2.3	0.0	0.3	
	臨時雇用	人日	13.5	216.0	0.0	15.9	216.0	0.0	10.9	170.0	0.0	9.5	
	土地面積 (ha)	飼料生産	ha	3.5	30.0	0.0	5.1	30.0	0.0	1.7	10.2	0.0	4.8
		うち借地	ha	2.4	28.0	0.0	3.2	28.0	0.0	1.4	10.0	0.0	3.9
		飼料生産	ha	0.7	25.0	0.0	1.3	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9
		うち借地	ha	0.6	23.0	0.0	1.2	23.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8
飼料生産		ha	14.2	49.0	0.0	14.8	49.0	0.0	13.6	48.0	0.0	12.1	
うち借地		ha	9.0	40.0	0.0	9.1	40.0	0.0	8.9	38.0	0.0	7.4	
個別利		ha	0.6	22.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	22.0	0.0	0.0	
用草地		ha	0.4	15.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	15.6	0.0	0.0	
共同利		ha	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
用草地		ha	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
延べ面積	飼料生産	ha	18.9	73.0	0.0	21.1	73.0	0.0	16.5	48.0	3.0	17.7	
	うち借地	ha	12.4	65.0	0.0	13.5	65.0	0.0	11.2	38.0	0.0	12.0	
	成雌牛1頭当り	ha	0.33	1.10	0.00	0.31	0.52	0.00	0.35	1.10	0.15	0.30	
うち借地	ha	0.22	1.09	0.00	0.20	0.50	0.00	0.23	1.09	0.00	0.14		

表12 収益性及び生産技術

項目	単位	全体 (38事例)			高度化事業 (20事例)			畜特事業 (18事例)			R5年	R6-R5	
		平均	最大値	最小値	平均	最大値	最小値	平均	最大値	最小値	平均	差	
飼養頭数	成雌牛	頭	58.0	204.4	19.0	67.4	204.4	25.8	47.6	132.8	19.0	62.5	-4.5
	子牛	頭	36.0	117.5	12.0	42.7	117.5	15.4	28.6	76.0	12.0	38.9	-2.8
規模	育成牛	頭	2.5	15.0	0.0	2.9	15.0	0.0	2.0	8.3	0.3	2.7	-0.2
	子牛 雌	頭	19.5	67.0	5.0	22.5	67.0	5.0	16.2	34.0	6.0	21.9	-2.4
	子牛 雄	頭	25.6	107.0	7.0	32.2	107.0	9.0	18.2	51.0	7.0	25.7	-0.2
	子牛 計	頭	45.1	174.0	15.0	54.7	174.0	22.0	34.4	85.0	15.0	47.6	-2.5
	子牛出荷率	%	77.4	91.0	52.1	79.8	91.0	65.6	74.8	90.9	52.1	75.4	2.1
	育成牛	頭	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
死亡・ 廃用頭 数	成雌牛	頭	6.6	36.0	0.0	7.9	36.0	0.0	5.2	18.0	0.0	6.4	0.2
	成雌牛	頭	1.2	9.0	0.0	1.2	9.0	0.0	1.3	9.0	0.0	1.0	0.2
	子牛	頭	1.4	8.0	0.0	1.5	8.0	0.0	1.4	8.0	0.0	1.2	0.2
	子牛事故率	%	3.0	9.7	0.0	3.0	9.7	0.0	3.1	7.0	0.0	2.3	0.8
	育成牛	頭	0.0	1.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.1	1.0	0.0	0.0	0.0
	出荷頭数	頭	20	67	5	23	67	5	16	34	6	22	-2.4
雌子牛	出荷日齢	日齢	273	301	251	274	301	251	272	289	256	271	2.4
	出荷体重	kg	273	310	221	273	310	221	274	309	251	268	5.0
	日齢体重 (DG)	kg	1.002	1.152	0.795	0.999	1.152	0.795	1.006	1.136	0.924	0.992	0.011
	1頭当り販売価格	円	446,159	590,563	300,438	441,744	562,039	300,438	451,064	590,563	365,750	481,266	-35,108
	販売価格/生体kg	円	1,629	1,974	1,347	1,613	1,892	1,347	1,647	1,974	1,391	1,795	-165.9
	出荷頭数	頭	26	107	7	32	107	9	18	51	7	26	-0.2
去勢牛	出荷日齢	日齢	268	291	244	270	291	248	267	290	244	265	3.7
	出荷体重	kg	297	344	266	299	344	271	294	343	266	294	3.0
	日齢体重 (DG)	kg	1.106	1.237	1.007	1.109	1.237	1.007	1.102	1.211	1.007	1.110	-0.005
	1頭当り販売価格	円	577,572	696,483	414,950	572,813	690,690	414,950	582,860	696,483	500,907	609,909	-32,337
	販売価格/生体kg	円	1,951	2,310	1,436	1,921	2,151	1,436	1,984	2,310	1,735	2,084	-132.9

繁殖技術	分娩頭数	頭	49.2	158.0	16.0	58.1	158.0	20.0	39.3	114.0	16.0	53.9	-4.7
	平均分娩間隔	か月	12.9	15.5	11.8	12.7	15.2	11.8	13.2	15.5	11.8	12.9	0.0
	生産率	%	85.4	115.8	63.2	87.8	100.7	64.2	82.8	115.8	63.2	85.6	-0.2
飼料	飼料生産利用延べ面積	a	1,892	7,300	0	2,110	7,300	0	1,649	4,800	300	1,775	117
生産	成雌牛1頭当り面積	a	33.0	110.3	0.0	31.1	52.5	0.0	35.2	110.3	15.0	29.6	3.5
投下	労働力1人当り成雌牛飼養頭数	頭	24.1	50.1	10.2	26.5	50.1	10.2	21.5	33.9	11.2	25.3	-1.2
労働	成雌牛1頭当り投下労働時間	時間	98.7	198.0	39.3	93.9	198.0	39.3	104.0	178.9	57.2	99.0	-0.3
損益	売上高	円	524,251	663,892	389,950	520,995	629,750	389,950	527,869	663,892	446,844	555,376	-31,125
	売上原価	円	851,450	1,468,490	600,893	794,223	1,288,732	600,893	915,034	1,468,490	716,453	826,400	25,049
	うち購入飼料費	円	282,605	492,467	166,618	271,618	492,467	166,618	294,812	449,160	194,803	293,421	-10,816
	減価償却費	円	164,060	359,080	51,166	149,594	249,600	51,166	180,133	359,080	69,564	154,832	9,228
	労働費	円	249,609	555,434	92,238	229,818	555,434	92,238	271,598	453,187	121,816	231,963	17,646
	売上総利益	円	-327,199	-100,820	-927,345	-273,229	-100,820	-791,332	-387,165	-198,362	-927,345	-271,025	-56,174
	営業利益	円	-406,077	-160,110	-1,087,980	-350,883	-160,110	-855,739	-467,403	-263,990	-1,087,980	-357,096	-48,981
	経常利益	円	-264,061	38,522	-710,310	-212,049	38,522	-709,092	-321,853	-110,525	-710,310	-251,529	-12,532
	販生子牛1頭当り生産原価	円	847,979	1,468,490	600,893	790,424	1,288,732	600,893	911,929	1,468,490	716,453	824,654	23,325
		家族労働費を含む	円	611,829	1,060,946	457,573	573,838	737,625	464,277	654,041	1,060,946	457,573	601,842
	家族労働費を除く	千円	-963	9,749	-13,646	470	9,749	-9,390	-2,555	2,046	-13,646	-1,486	523
所得	家族労働力1人当り年間所得	千円	-561	5,131	-6,823	66	5,131	-6,298	-1,259	1,243	-6,823	-900	339
	成雌牛常時1頭当り年間所得	円	-17,460	143,337	-221,957	4,336	143,337	-128,016	-41,677	107,684	-221,957	-17,141	-319
	子牛出荷1頭当り所得	円	-27,911	212,365	-340,343	4,538	212,365	-154,406	-63,964	136,399	-340,343	-28,717	807
	所得率	%	-6.3	33.7	-73.8	-0.1	33.7	-38.5	-13.2	23.9	-73.8	-5.9	-0.4
負債	売上高負債比率	%	192.2	817.8	0.0	147.0	594.1	0.0	242.4	817.8	0.0	140.6	51.7
	売上高償還額比率	%	19.4	176.0	0.0	12.6	32.6	0.0	26.9	176.0	0.0	15.8	3.5
	売上高支払利息比率	%	2.1	13.8	0.0	1.0	5.5	0.0	3.3	13.8	0.0	1.1	1.0
	成雌牛1頭当り借入金残高	円	731,310	2,292,807	0	569,384	2,292,807	0	911,229	2,229,642	0	584,962	146,349

表13 損益計算書（成雌牛常時1頭当り）

(単位：円)

科目	全体（38事例）			高度化事業（20事例）			畜特事業（18事例）			令和5年		R6-R5 差
	平均	最大値	最小値	平均	最大値	最小値	平均	最大値	最小値	平均		
子牛販売収入	401,398	585,125	240,281	411,930	486,231	331,082	389,695	585,125	240,281	414,748	-13,350	
育成牛販売収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
肥育牛販売収入	1,622	23,802	0	0	0	0	3,424	23,802	0	2,498	-876	
堆肥販売・交換収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	2,284	47,941	0	2,519	47,941	0	2,022	21,401	0	1,452	832	
計	405,303	585,125	240,281	414,450	486,231	331,600	395,140	585,125	240,281	418,698	-13,395	
期首時評価額	112,570	235,715	61,640	112,038	176,496	61,640	113,161	235,715	61,701	109,434	3,136	
当期生産費用合計	681,250	1,115,450	486,236	654,359	903,279	486,236	711,128	1,115,450	520,772	658,564	22,685	
期中成牛振替額	38,848	131,379	0	35,712	111,319	0	42,333	131,379	0	42,610	-3,762	
期末時評価額	103,884	244,052	51,882	103,972	186,506	70,314	103,787	244,052	51,882	110,198	-6,313	
売上原価	651,087	1,116,723	452,704	626,713	859,155	452,704	678,169	1,116,723	491,175	615,190	35,897	
売上総利益	-245,784	-85,825	-705,206	-212,264	-85,825	-527,555	-283,028	-155,124	-705,206	-196,492	-49,292	
販売経費	14,495	33,732	4,317	14,895	28,195	6,728	14,050	33,732	4,317	17,978	-3,483	
保険料	22,340	41,050	0	23,433	41,050	2,376	21,126	34,765	0	23,289	-949	
租税公課・諸負担	10,437	24,722	0	11,296	24,498	0	9,482	24,722	1,293	10,716	-280	
事務費・その他	12,493	39,724	0	11,762	27,344	2,139	13,306	39,724	0	12,016	477	
計	59,764	122,155	16,826	61,386	94,562	32,871	57,963	122,155	16,826	63,999	-4,234	

営業利益	-305,548	-145,761	-827,361	-273,650	-145,761	-570,493	-340,991	-209,294	-827,361	-260,491	-45,057
受取利息	379	14,368	0	720	14,368	0	0	3	0	1	378
奨励金・補填金	83,293	198,151	41,788	82,555	126,565	41,788	84,113	198,151	51,450	56,872	26,421
成牛処分益	18,287	88,822	0	21,115	88,822	0	15,145	42,620	0	20,795	-2,508
その他	26,594	188,141	0	20,554	99,132	0	33,305	188,141	0	15,422	11,172
計	128,553	341,682	63,513	124,943	189,751	70,716	132,563	341,682	63,513	93,090	35,462
支払利息	7,606	33,182	0	3,958	21,333	0	11,659	33,182	0	4,239	3,367
支払地代	6,141	34,901	0	4,458	12,577	0	8,010	34,901	0	5,340	801
価格安定積立金	810	2,619	0	877	2,619	0	736	1,539	0	510	300
成牛処分損	4,416	23,249	0	5,014	23,249	0	3,751	16,642	0	4,487	-71
その他	618	5,145	0	243	2,214	0	1,035	5,145	0	444	174
計	19,590	46,198	1,264	14,550	38,628	1,264	25,190	46,198	4,082	15,698	3,892
経常利益	-196,586	35,070	-531,877	-163,257	35,070	-472,728	-233,618	-97,412	-531,877	-181,371	-15,215
特別利益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特別損失	380	15,510	0	42	848	0	912	15,510	0	0	380
当期純利益	-197,016	34,222	-531,877	-163,299	34,222	-472,728	-234,480	-97,412	-531,877	-181,371	-15,646
経常所得	-17,891	143,337	-221,957	4,293	143,337	-128,016	-42,539	107,684	-221,957	-18,509	619
当期純所得	-17,891	143,337	-221,957	4,293	143,337	-128,016	-42,539	107,684	-221,957	-18,509	619
成雌牛平均飼養頭数	58	204	19	67	204	26	48	133	19	63	-5

表14 損益計算書（子牛出荷1頭当り）

(単位：円)

科目	全体 (38事例)			高度化事業 (20事例)			畜特事業 (18事例)			令和5年	R6-R5
	平均	最大値	最小値	平均	最大値	最小値	平均	最大値	最小値	平均	差
子牛販売収入	518,651	663,892	389,950	517,196	629,750	389,950	520,268	663,892	446,844	550,222	-31,571
育成牛販売収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
肥育牛販売収入	2,129	35,868	0	0	0	0	4,495	35,868	0	3,407	-1,278
堆肥販売・交換収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	3,470	73,111	0	3,799	73,111	0	3,105	33,435	0	1,746	1,724
計	524,251	663,892	389,950	520,995	629,750	389,950	527,869	663,892	446,844	555,376	-31,125
期首時評価額	145,849	309,966	91,876	140,473	241,543	94,002	151,822	309,966	91,876	146,292	-443
当期生産費用合計	893,975	1,466,817	615,997	830,903	1,354,919	615,997	964,055	1,466,817	747,216	889,118	4,857
期中成牛振替額	52,982	179,125	0	46,632	166,979	0	60,038	179,125	0	60,778	-7,796
期末時評価額	135,392	309,132	68,816	130,520	214,482	77,236	140,806	309,132	68,816	148,232	-12,839
売上原価	851,450	1,468,490	600,893	794,223	1,288,732	600,893	915,034	1,468,490	716,453	826,400	25,049
売上総利益	-327,199	-100,820	-927,345	-273,229	-100,820	-791,332	-387,165	-198,362	-927,345	-271,025	-56,174
販売総費	18,851	44,358	6,389	18,817	36,879	8,629	18,889	44,358	6,389	23,901	-5,049
保険料	29,440	52,651	0	29,632	52,651	2,894	29,228	51,101	0	32,189	-2,749
租税公課・諸負担	13,642	34,014	0	14,073	29,428	0	13,162	34,014	1,695	14,115	-473
事務費・その他	16,945	76,270	0	15,133	41,699	2,609	18,958	76,270	0	15,867	1,078
計	78,878	167,649	24,249	77,655	144,207	40,136	80,238	167,649	24,249	86,071	-7,193

営業利益	-406,077	-160,110	-1,087,980	-350,883	-160,110	-855,739	-467,403	-263,990	-1,087,980	-357,096	-48,981
受取利息	540	20,469	0	1,026	20,469	0	0	6	0	1	539
賞励金・補填金	108,010	250,992	59,532	103,772	162,333	59,532	112,720	250,992	76,343	75,345	32,665
成牛処分益	23,928	106,043	0	26,299	106,043	0	21,294	81,830	0	28,783	-4,854
その他	35,566	247,406	0	25,578	113,570	0	46,665	247,406	0	21,359	14,207
計	168,045	449,312	77,803	156,675	237,589	86,145	180,679	449,312	77,803	125,488	42,557
支払利息	10,433	63,710	0	4,901	25,681	0	16,579	63,710	0	5,484	4,948
支払地代	7,869	42,483	0	5,378	15,141	0	10,637	42,483	0	6,906	963
価格安定積立金	1,059	3,127	0	1,102	3,127	0	1,012	2,560	0	647	412
成牛処分損	5,790	28,291	0	6,171	27,265	0	5,367	28,291	0	6,304	-514
その他	878	8,038	0	287	2,636	0	1,534	8,038	0	580	298
計	26,029	82,389	1,856	17,840	46,503	1,856	35,129	82,389	5,882	19,922	6,108
経常利益	-264,061	38,522	-710,310	-212,049	38,522	-709,092	-321,853	-110,525	-710,310	-251,529	-12,532
特別利益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特別損失	453	19,000	0	47	931	0	1,056	19,000	0	0	453
当期純利益	-264,586	37,591	-710,310	-212,095	37,591	-709,092	-322,908	-110,525	-710,310	-251,529	-13,057
経常所得	-27,911	212,365	-340,343	4,538	212,365	-154,406	-63,964	136,399	-340,343	-28,717	807
当期純所得	-28,435	212,365	-340,343	4,491	212,365	-154,406	-65,020	136,399	-340,343	-28,717	282
子牛出荷頭数	45	174	15	55	174	22	34	85	15	48	-3

表15 生産費用（成雌牛常時1頭当り）

（単位：円）

費目	全体（38事例）			構成比	高度化事業（20事例）			畜特事業（18事例）			令和5年	
	平均	最大値	最小値		平均	最大値	最小値	平均	最大値	最小値	平均	R6-R5
種付料	22,515	41,149	3,410	3	22,417	41,149	3,410	22,624	32,301	14,808	22,823	1,181
もと畜費	6,872	73,958	0	1	5,644	73,958	0	8,236	49,745	0	10,379	-417
購入飼料費	216,844	342,579	136,982	32	214,675	328,311	138,405	219,255	342,579	136,982	218,384	5,832
自給飼料費	19,491	59,470	0	3	20,686	36,497	0	18,164	59,470	0	20,978	528
敷料費	5,037	30,824	0	1	4,958	14,161	0	5,125	30,824	0	4,164	451
労働費	9,787	108,657	0	1	10,576	51,694	0	8,910	108,657	0	7,064	1,755
	179,126	383,460	46,792	26	167,592	383,460	46,792	191,941	346,621	58,052	165,279	11,266
	188,913	385,291	76,942	27	178,168	385,291	76,942	200,851	357,779	110,742	172,343	13,022
診療・医薬品費	20,311	54,262	3,519	3	20,667	40,856	6,458	19,915	54,262	3,519	20,089	157
電力・水道費	9,705	24,133	160	1	11,924	24,133	2,770	7,241	16,810	160	9,083	1,007
燃料費	16,355	55,721	1,194	2	13,188	27,418	1,194	19,873	55,721	2,869	14,579	1,426
	19,245	60,679	0	3	19,222	55,011	1,167	19,271	60,679	0	16,984	-551
	42,126	154,141	5,070	6	39,285	81,679	5,070	45,283	154,141	8,965	35,540	2,971
減価償却費	63,390	126,028	22,781	9	60,727	126,028	22,781	66,350	107,632	34,888	62,504	-2,225
	124,762	273,065	34,535	18	119,234	207,335	34,535	130,904	273,065	57,149	115,027	195
修繕費	22,424	142,089	25	3	18,447	42,586	1,009	26,844	142,089	25	23,894	-2,471
小農具費	3,229	19,328	22	0	2,994	10,017	187	3,491	19,328	22	3,429	-819
消耗諸材料費	8,955	35,782	877	1	7,905	16,847	1,442	10,121	35,782	877	9,842	-722

賃料料金・その他	15,835	97,542	294	2	13,450	97,542	1,242	18,486	89,060	294	13,550	2,094
当期生産費用合計	681,250	1,115,450	486,236	100	654,359	903,279	486,236	711,128	1,115,450	520,772	658,564	21,465
期首飼養畜評価額	112,570	235,715	61,640	—	112,038	176,496	61,640	113,161	235,715	61,701	109,434	3,645
期中成牛振替額	38,848	131,379	0	—	35,712	111,319	0	42,333	131,379	0	42,610	-1,678
期末飼養畜評価額	103,884	244,052	51,882	—	103,972	186,506	70,314	103,787	244,052	51,882	110,198	-6,370
売上原価	651,087	1,116,723	452,704	—	626,713	859,155	452,704	678,169	1,116,723	491,175	615,190	33,158
販売経費	14,495	33,732	4,317	—	14,895	28,195	6,728	14,050	33,732	4,317	17,978	-3,184
保険料	22,340	41,050	0	—	23,433	41,050	2,376	21,126	34,765	0	23,289	-2,513
租税公課・諸負担	10,437	24,722	0	—	11,296	24,498	0	9,482	24,722	1,293	10,716	-731
事務費・その他	12,493	39,724	0	—	11,762	27,344	2,139	13,306	39,724	0	12,016	-512
計	59,764	122,155	16,826	—	61,386	94,562	32,871	57,963	122,155	16,826	63,999	-6,940
支払利息	7,606	33,182	0	—	3,958	21,333	0	11,659	33,182	0	4,239	4,692
支払地代	6,141	34,901	0	—	4,458	12,577	0	8,010	34,901	0	5,340	1,005
価格安定積立金	810	2,619	0	—	877	2,619	0	736	1,539	0	510	353
成牛処分損	4,416	23,249	0	—	5,014	23,249	0	3,751	16,642	0	4,487	57
その他	618	5,145	0	—	243	2,214	0	1,035	5,145	0	444	352
計	19,590	46,198	1,264	—	14,550	38,628	1,264	25,190	46,198	4,082	15,020	6,460
総原価	730,442	1,285,077	523,863	—	702,650	904,561	523,863	761,322	1,285,077	565,218	694,208	32,677
うち家族労賃除く	551,316	975,157	409,860	—	535,057	695,267	409,860	569,381	975,157	442,802	528,930	21,411
成雌牛平均飼養頭数	58	204	19	—	67	204	26	48	133	19	63	-5

表16 生産費用（子牛出荷1頭当り）

（単位：円）

費目	全体（38事例）			高度化事業（20事例）			畜特事業（18事例）			令和5年	
	平均	最大値	最小値	平均	最大値	最小値	平均	最大値	最小値	平均	差
種付料	29,258	47,589	4,006	28,282	47,589	4,006	30,343	40,915	20,133	30,719	-1,460
もと畜費	9,648	86,880	0	6,716	86,880	0	12,907	77,719	0	16,161	-6,513
購入飼料費	282,605	492,467	166,618	271,618	492,467	166,618	294,812	449,160	194,803	293,421	-10,816
自給飼料費	25,681	78,203	0	26,700	55,657	0	24,549	78,203	0	28,520	-2,839
敷料費	6,329	34,973	0	6,063	16,860	0	6,624	34,973	0	5,608	721
労働費	13,458	169,761	0	13,231	61,716	0	13,710	169,761	0	9,151	4,307
	236,151	554,686	57,133	216,587	554,686	57,133	257,888	439,053	90,697	222,812	13,339
計	249,609	555,434	92,238	229,818	555,434	92,238	271,598	453,187	121,816	231,963	17,646
診療・医薬品費	26,215	71,144	5,009	25,887	48,642	8,447	26,579	71,144	5,009	26,774	-559
電力・水道費	12,708	36,802	194	15,119	36,802	3,946	10,030	26,263	194	12,378	331
燃料費	21,639	73,273	1,532	16,664	39,060	1,532	27,166	73,273	4,174	19,833	1,805
減価償却費	25,338	92,330	0	24,111	63,263	1,389	26,702	92,330	0	22,238	3,101
	56,046	202,695	7,511	49,670	115,078	7,511	63,130	202,695	9,861	46,979	9,067
	82,676	153,525	30,553	75,813	153,525	30,553	90,301	136,564	42,468	85,615	-2,940
計	164,060	359,080	51,166	149,594	249,600	51,166	180,133	359,080	69,564	154,832	9,228
修繕費	29,311	186,847	33	22,866	48,789	1,496	36,471	186,847	33	32,097	-2,787
小農具費	4,175	24,482	24	3,806	14,270	224	4,585	24,482	24	4,926	-751
消耗諸材料費	12,133	53,922	1,149	10,125	24,001	1,668	14,365	53,922	1,149	13,077	-944

賃料料金・その他	20,605	138,960	424	17,645	138,960	1,624	23,894	101,049	424	18,810	1,795
当期生産費用合計	893,975	1,466,817	615,997	830,903	1,354,919	615,997	964,055	1,466,817	747,216	889,118	4,857
期首飼養畜評価額	145,849	309,966	91,876	140,473	241,543	94,002	151,822	309,966	91,876	146,292	-443
期中成牛振替額	52,982	179,125	0	46,632	166,979	0	60,038	179,125	0	60,778	-7,796
期末飼養畜評価額	135,392	309,132	68,816	130,520	214,482	77,236	140,806	309,132	68,816	148,232	-12,839
売上原価	851,450	1,468,490	600,893	794,223	1,288,732	600,893	915,034	1,468,490	716,453	826,400	25,049
販売経費	18,851	44,358	6,389	18,817	36,879	8,629	18,889	44,358	6,389	23,901	-5,049
保険料	29,440	52,651	0	29,632	52,651	2,894	29,228	51,101	0	32,189	-2,749
租税公課・諸負担	13,642	34,014	0	14,073	29,428	0	13,162	34,014	1,695	14,115	-473
事務費・その他	16,945	76,270	0	15,133	41,699	2,609	18,958	76,270	0	15,867	1,078
計	78,878	167,649	24,249	77,655	144,207	40,136	80,238	167,649	24,249	86,071	-7,193
支払利息	10,433	63,710	0	4,901	25,681	0	16,579	63,710	0	5,484	4,948
支払地代	7,869	42,483	0	5,378	15,141	0	10,637	42,483	0	6,906	963
価格安定積立金	1,059	3,127	0	1,102	3,127	0	1,012	2,560	0	647	412
成牛処分損	5,790	28,291	0	6,171	27,265	0	5,367	28,291	0	6,304	-514
その他	878	8,038	0	287	2,636	0	1,534	8,038	0	580	298
計	26,029	82,389	1,856	17,840	46,503	1,856	35,129	82,389	5,882	19,922	6,108
総原価	956,357	1,689,876	656,497	889,718	1,356,842	656,497	1,030,401	1,689,876	801,313	932,393	23,964
子牛1頭1日当り飼養費	1,056	1,602	821	1,017	1,591	821	1,099	1,602	837	1,035	21
うち家族労賃除く	720,207	1,282,331	542,433	673,132	830,064	551,606	772,512	1,282,331	542,433	709,582	10,625
子牛出荷頭数	45	174	15	55	174	22	34	85	15	48	-3

表17 貸借対照表

(単位：円)

項目	全体 (38事例)										令和5年 平均		
	平均		最大		最小		高度化事業 (20事例)		畜特事業 (18事例)		期首	期末	
	期首	期末	期首	期末	期首	期末	期首	期末	期首	期末			
資産の部	現金・預金	6,658,686	6,401,034	121,339,716	137,268,319	0	0	12,111,368	12,015,618	1,206,003	786,451	9,230,387	8,900,991
	売掛金	74,288	19,741	2,154,805	600,000	0	0	603	659	147,974	38,823	17,201	24,746
	未収金	452,588	485,230	9,353,945	4,898,034	0	0	716,615	690,873	188,561	279,588	194,429	492,217
	家畜	6,404,138	5,934,772	23,180,394	18,776,957	1,837,528	1,271,114	7,297,791	6,744,853	5,510,485	5,124,691	7,271,339	7,072,358
	飼料ほか資材	766,031	856,864	12,013,151	14,102,956	0	0	1,135,801	1,174,276	396,261	539,452	402,488	631,928
	その他	818,195	697,806	7,803,612	8,497,789	0	0	771,682	701,069	864,708	694,543	556,837	450,332
	計	15,173,926	14,395,449	166,821,414	174,806,252	2,357,421	1,271,114	22,033,859	21,327,349	8,313,992	7,463,549	12,234,933	12,165,626
	有形固定資産	33,783,253	30,936,460	135,958,937	144,705,413	5,338,614	7,310,848	40,709,577	37,086,248	26,856,930	24,786,672	37,597,990	35,353,123
	無形固定資産	2,000,090	1,994,348	64,648,611	64,648,611	0	0	4,000,179	3,988,696	0	0	235,960	420,548
	外部投資	282,262	319,567	2,863,683	3,101,683	0	0	270,250	311,491	294,274	327,642	327,565	351,022
その他	1,516,329	399,813	29,962,085	2,984,916	0	0	1,203,538	565,456	1,829,121	234,170	406,320	1,902,154	
計	36,971,161	33,105,397	148,368,245	157,060,447	0	0	46,183,543	41,951,892	27,758,779	24,258,901	26,700,809	26,326,278	
繰延資産	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
資産 合計	52,145,087	47,500,845	315,189,659	331,866,699	9,743,419	8,574,024	68,217,403	63,279,240	36,072,771	31,722,450	38,935,743	38,491,905	
負債の部	買掛金	3,433,160	3,364,650	19,626,871	16,274,808	0	0	4,655,556	4,781,065	2,210,764	1,948,235	3,732,288	4,606,323
	未払金	3,354,663	2,964,501	27,677,150	35,047,163	0	0	3,072,473	1,968,902	3,636,852	3,960,099	2,841,462	2,921,718
	短期借入金	907,276	1,418,107	16,128,347	26,119,563	0	0	957,515	2,013,603	857,037	822,612	1,832,669	2,058,930
	預託金	1,645,274	1,691,346	24,041,802	27,557,725	0	0	31,579	31,579	3,258,968	3,351,113	1,107,408	1,189,964
	その他	377,360	650,717	7,558,759	15,318,216	0	0	479,143	891,391	275,578	410,042	322,560	354,562
	計	9,717,732	10,089,320	62,174,257	72,618,742	0	0	9,196,265	9,686,540	10,239,200	10,492,101	6,809,806	7,706,421
	長期借入金	31,859,889	32,014,198	100,768,000	97,885,000	0	0	31,521,761	30,043,149	32,198,016	33,985,248	27,878,833	31,023,101
	その他	1,914,538	897,670	25,920,338	10,527,570	0	0	1,408,882	700,394	2,420,194	1,094,946	2,375,270	2,930,727
	計	33,774,427	32,911,868	100,768,000	97,885,000	0	0	32,930,643	30,743,543	34,618,210	35,080,194	20,945,149	23,506,496
	負債 合計	43,492,159	43,001,189	116,784,187	111,922,742	0	0	42,126,909	40,430,083	44,857,410	45,572,294	27,754,955	31,212,917

資本	12,587,482	12,724,447	282,340,545	309,063,303	-68,107,841	-63,783,232	30,648,862	30,179,887	-5,473,899	-4,730,992	17,899,253	18,473,662
資本準備金	-3,323,781	1,461,790	69,234,109	13,371,339	-41,822,243	0	-4,558,368	870,814	-2,089,194	2,052,767	-1,749,226	1,645,467
当期利益	0	-9,141,790	0	2,405,855	0	-21,355,276	0	-8,201,543	0	-10,082,037	0	-9,605,035
資本 合計	9,263,701	5,044,448	276,808,030	298,572,021	-71,087,174	-77,995,713	26,090,494	22,849,158	-7,563,093	-12,760,262	11,180,787	7,278,988
負債・資本合計	52,755,860	48,045,637	315,189,659	331,866,699	10,678,458	9,109,070	68,217,403	63,279,240	37,294,317	32,812,033	38,935,743	38,491,905
長期借入金残高			31,859,889				29,945,673		33,986,795		27,878,833	
当期借入高			3,278,863				1,418,514		5,345,917		6,527,848	
約定償還額			3,855,159				3,137,014		4,653,097		3,652,287	
実償還額			3,124,553				2,823,196		3,459,394		3,383,580	
期末借入金残高			32,014,198				28,540,991		35,873,317		21,477,531	
短期借入金残高			907,276				909,640		904,650		1,832,669	
当期借入高			1,148,926				1,478,478		782,757		516,524	
約定償還額			533,109				275,722		819,094		290,263	
実償還額			638,095				475,195		819,094		290,263	
期末借入金残高			1,418,107				1,912,922		868,312		1,425,413	
借入合計			32,767,165				30,855,313		34,891,444		20,569,502	
当期借入高			4,427,788				2,896,992		6,128,673		4,876,872	
約定償還額			4,388,268				3,412,736		5,472,191		2,729,457	
実償還額			3,762,648				3,298,391		4,278,488		2,543,430	
期末借入金残高			33,432,305				30,453,914		36,741,630		22,902,944	
当座比率	1,759	334	35,446	6,124	0	0	1,611	581	1,907	87	452	949
流動比率	4,924	876	115,484	7,526	0	0	3,422	905	6,426	848	596	1,261
固定比率(自己資本)	183	-119	2,733	1,455	-1,007	-2,595	247	204	119	-443	7,605	550
固定比率(長期資本)	110	101	276	411	34	-198	100	73	120	128	114	93
自己資本比率	-6	-23	100	100	-204	-300	14	3	-27	-49	2	-12

負債の状況

分析結果

(%)

表18 所得別、規模別の損益計算書（成雌牛常時1頭当り）

（単位：円、%、頭）

科 目		所得の 最も 高い事例	所得の 最も 低い事例	成雌牛頭数規模別		
				30頭未満 n=9	30～59頭 n=17	60頭以上 n=12
売 上 高	子牛販売収入	425,053	411,517	436,148	374,937	412,820
	育成牛販売収入	0	0	0	0	0
	肥育牛販売収入	0	0	0	1,283	3,319
	堆肥販売・交換収入	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	3,067	2,887
	計	425,053	411,517	436,148	379,287	419,026
売 上 原 価	期首時評価額	71,161	235,715	132,716	106,473	106,097
	当期生産費用合計	663,140	1,115,450	787,496	657,093	635,787
	期中成牛振替額	50,994	131,379	43,553	33,633	42,707
	期末時評価額	82,665	103,064	111,208	101,775	101,380
	売上原価	600,642	1,116,723	765,450	628,158	597,797
売上総利益		-175,589	-705,206	-329,302	-248,871	-178,771
販 売 一 般 管 理 費	販売経費	17,920	33,732	14,636	13,085	16,386
	保険料	23,497	34,765	20,596	21,609	24,684
	租税公課・諸負担	3,147	16,484	10,904	11,710	8,282
	事務費・その他	6,758	37,174	11,680	16,716	7,121
	計	51,322	122,155	57,815	63,120	56,473
営業利益		-226,911	-827,361	-387,117	-311,991	-235,244
営 業 外 収 益	受取利息	4	0	0	1	1,200
	奨励金・補填金	90,131	125,693	108,018	71,664	81,224
	成牛処分益	29,063	27,848	14,357	15,978	24,505
	その他	25,942	188,141	34,126	23,764	24,953
	計	145,140	341,682	156,500	111,406	131,882
営 業 外 費 用	支払利息	1	22,889	6,034	10,154	5,175
	支払地代	8,881	23,042	7,263	6,315	5,052
	価格安定積立金	1,208	267	400	929	950
	成牛処分損	3,402	0	5,637	3,912	4,214
	その他	0	0	279	645	834
	計	13,491	46,198	19,613	21,954	16,224
経常利益		-95,262	-531,877	-250,230	-222,539	-119,585
特別利益		0	0	0	0	0
特別損失		0	0	1,939	0	71
当期純利益		-95,262	-531,877	-251,953	-222,539	-119,656
経常所得		143,337	-221,957	10,727	-39,955	-8,096
当期純所得		143,337	-221,957	10,727	-39,955	-8,096
成雌牛平均飼養頭数		56	26	26	42	106

表19 所得別、規模別の損益計算書（子牛出荷1頭当り）

（単位：円、%、頭）

科 目		所得の 最も 高い事例	所得の 最も 低い事例	成雌牛頭数規模別		
				30頭未満 n=9	30～59頭 n=17	60頭以上 n=12
売 上 高	子牛販売収入	629,750	461,340	538,222	502,877	526,320
	育成牛販売収入	0	0	0	0	0
	肥育牛販売収入	0	0	0	1,562	4,530
	堆肥販売・交換収入	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	4,601	4,472
	計	629,750	461,340	538,222	509,040	535,322
売 上 原 価	期首時評価額	105,431	155,182	165,791	141,896	136,492
	当期生産費用合計	982,494	1,339,287	982,394	895,358	825,701
	期中成牛振替額	75,551	165,674	56,327	48,938	56,203
	期末時評価額	122,475	162,620	137,695	136,276	132,413
	売上原価	889,899	1,166,175	954,162	852,040	773,578
売上総利益		-260,149	-704,835	-415,941	-343,001	-238,256
販 売 一 般 管 理 費	販売経費	26,549	16,508	18,233	17,634	21,039
	保険料	34,812	47,684	25,349	29,471	32,466
	租税公課・諸負担	4,663	27,188	13,353	15,947	10,593
	事務費・その他	10,013	76,270	14,618	23,694	9,128
	計	76,037	167,649	71,554	86,746	73,226
営業利益		-336,186	-872,484	-487,495	-429,747	-311,481
営 業 外 収 益	受取利息	6	6	0	1	1,709
	奨励金・補填金	133,536	98,783	135,203	96,736	103,587
	成牛処分益	43,060	81,830	18,421	22,733	29,752
	その他	38,435	63,944	44,018	31,720	34,677
	計	215,036	244,564	197,642	151,190	169,725
営 業 外 費 用	支払利息	1	63,710	7,414	14,392	7,086
	支払地代	13,158	8,500	9,177	8,123	6,529
	価格安定積立金	1,789	2,560	487	1,242	1,230
	成牛処分損	5,040	0	6,738	5,110	6,044
	その他	0	7,619	342	969	1,151
	計	19,988	82,389	24,159	29,836	22,039
経常利益		-141,138	-710,310	-314,011	-308,393	-163,796
特別利益		0	0	0	0	0
特別損失		0	0	2,111	0	78
当期純利益		-141,138	-710,310	-316,122	-308,393	-163,873
経常所得		212,365	-340,343	13,658	-56,432	-18,682
当期純所得		212,365	-340,343	11,547	-56,432	-18,759
子牛出荷頭数		38	20	21	31	83

表20 原価別、規模別の生産費用（成雌牛常時1頭当り）（単位：円、%、頭）

費目	総原価 の最も 低い事例	総原価 の最も 高い事例	成雌牛頭数規模別			
			30頭未満 n=9	30~59頭 n=17	60頭以上 n=12	
種付料	20,764	23,662	23,481	21,531	23,766	
もと畜費	0	15,034	4,955	3,624	10,689	
購入飼料費	161,913	155,676	202,254	222,310	223,800	
自給飼料費	24,102	59,470	21,182	20,860	19,688	
敷料費	4,894	15,247	6,922	3,375	6,252	
労働費	雇用労働費	5,722	0	1,707	1,946	27,007
	家族労働費	114,003	309,920	254,642	181,953	111,560
	計	119,725	309,920	256,349	183,899	138,567
診療・医薬品費	6,840	19,740	19,657	19,188	23,714	
電力・水道費	19,441	12,682	9,154	9,789	10,729	
燃料費	2,852	55,721	17,655	16,920	15,200	
減価償却費	建物・構築物	21,984	43,844	26,135	19,119	13,528
	機器具・車輛	55,125	154,141	56,608	37,873	39,188
	家畜	23,361	75,080	80,506	57,477	57,752
	計	100,470	273,065	163,249	114,469	110,468
修繕費	17,875	142,089	31,270	16,355	21,926	
小農具費	1,910	8,697	5,558	3,244	2,022	
消耗諸材料費	1,867	20,848	11,116	5,649	10,745	
賃料料金・その他	3,582	3,599	19,703	13,352	18,219	
当期生産費用合計	486,236	1,115,450	792,505	654,565	635,787	
期首飼養畜評価額	77,751	235,715	138,299	108,076	106,097	
期中成牛振替額	27,358	131,379	47,586	30,342	42,707	
期末飼養畜評価額	83,925	103,064	117,455	102,842	101,380	
生産原価	452,704	1,116,723	765,762	629,456	597,797	
販売一般管理費	販売経費	15,910	33,732	14,610	13,365	16,386
	保険料	19,820	34,765	19,060	21,407	24,684
	租税公課・諸負担	19,471	16,484	11,759	11,557	8,282
	事務費・その他	14,693	37,174	12,619	15,278	7,121
計	69,895	122,155	58,048	61,608	56,473	
営業外費用	支払利息	0	22,889	4,996	8,715	5,175
	支払地代	0	23,042	8,171	6,433	5,052
	価格安定積立金	1,264	267	407	904	950
	成牛処分損	0	0	6,341	4,156	4,214
	その他	0	0	314	437	834
計	1,264	46,198	20,229	20,645	16,224	
総原価	523,863	1,285,077	844,039	711,709	670,494	
うち家族労賃除く	409,860	975,157	589,398	529,756	558,934	
成雌牛平均飼養頭数	37	26	26	42	106	

表21 原価別、規模別の生産費用（子牛出荷1頭当り）

（単位：円、%、頭）

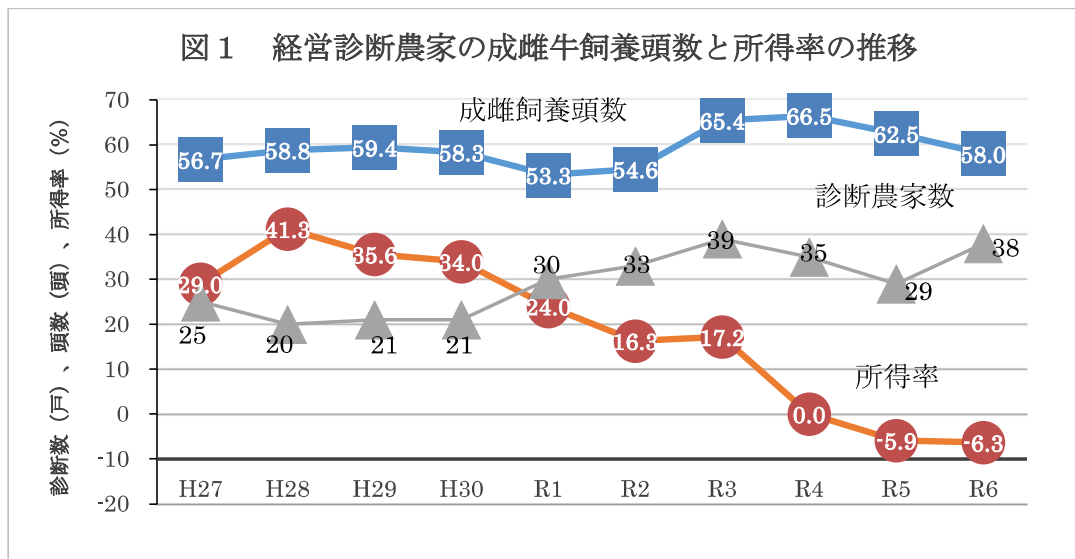
費目		総原価 の最も 低い事例	総原価 の最も 高い事例	成雌牛頭数規模別		
				30頭未満 n=9	30～59頭 n=17	60頭以上 n=12
種付料		24,268	31,115	28,722	28,587	30,612
もと畜費		0	19,770	6,137	8,324	14,157
購入飼料費		222,307	204,714	252,598	296,006	286,125
自給飼料費		21,159	78,203	23,745	26,101	26,537
敷料費		305	20,050	7,669	4,822	7,459
労働費	雇用労働費	36,814	0	2,190	2,688	37,165
	家族労働費	57,133	407,545	327,669	251,961	145,114
	計	93,947	407,545	329,860	254,649	182,279
診療・医薬品費		8,561	25,958	23,912	24,541	30,315
電力・水道費		7,009	16,677	10,893	12,997	13,661
燃料費		13,017	73,273	20,282	23,107	20,576
減価償却費	建物・構築物	36,949	57,655	29,668	28,992	16,915
	器具・車輛	92,297	202,695	68,098	53,441	50,696
	家畜	48,435	98,730	99,519	78,635	75,767
	計	177,681	359,080	197,285	161,068	143,379
修繕費		32,713	186,847	41,279	23,615	28,403
小農具費		513	11,437	6,238	4,196	2,599
消耗諸材料費		18,719	27,416	12,923	10,010	14,548
賃料料金・その他		5,656	4,733	20,852	17,335	25,051
当期生産費用合計		625,855	1,466,817	982,394	895,358	825,701
期首飼養畜評価額		122,172	309,966	165,791	141,896	136,492
期中成牛振替額		27,748	172,763	56,327	48,938	56,203
期末飼養畜評価額		117,310	135,529	137,695	136,276	132,413
生産原価		602,970	1,468,490	954,162	852,040	773,578
販売一般管理費	販売経費	10,010	44,358	18,233	17,634	21,039
	保険料	20,418	45,716	25,349	29,471	32,466
	租税公課・諸負担	4,207	21,676	13,353	15,947	10,593
	事務費・その他	5,500	48,884	14,618	23,694	9,128
	計	40,136	160,634	71,554	86,746	73,226
営業外費用	支払利息	742	30,100	7,414	14,392	7,086
	支払地代	11,217	30,300	9,177	8,123	6,529
	価格安定積立金	853	351	487	1,242	1,230
	成牛処分損	580	0	6,738	5,110	6,044
	その他	0	0	342	969	1,151
	計	13,392	60,751	24,159	29,836	22,039
総原価		656,497	1,689,876	1,049,875	968,622	868,843
うち家族労賃除く		599,364	1,282,331	722,206	716,662	723,729
子牛出荷頭数		119	20	21	31	83

(肉用牛)付表 1 肉用牛繁殖経営診断における勘定科目

	番号	勘定科目	取引内容
収益	7	堆肥販売・交換	
	8	預託料	
	9	奨励金・補填金	飼料補てん金、飼料大口奨励金、成牛市場奨励金、ワクチン助成、試験種付、助成金、輸送費補助
	10	受取利息	
	11	その他肉用牛部門収入	事故補償金、共済組合共済金
	12	肉用牛部門以外の農業収入	
	13	農外収入	
費用	20	もと畜費(肉用牛部門)	もと畜代、育成牛
	22	種付料	精液代、授精料、授精技術料、授精に関する消耗品
	24	自給飼料資材費	種子、肥料費、堆肥、ラップ資材、除草剤、農薬
	25	敷料費	オガコ、もみがら、シラス、パカス、パーク、敷料用砂
	26	雇用労賃	雇用労賃、賄い費、交通費、ヘルパー、雇用保険
	27	診療・医薬品費	治療、削蹄、除角、家畜薬品、消毒薬、衛生資材、共同防除負担金
	28	電気・水道費	電気料、水道料
	29	燃料費	軽油、ガソリン、重油、ガス代
	30	修繕費	車検代(自賠責保険は除く)
	31	小農具費	10万円未満の農機具
	32	消耗諸材料費	オモチ、綱、洗剤などの消耗品
	33	賃料料金・その他生産資材	登記・登録料、機械利用料、土地改良水利費、証明書料、預託料、検査事務費、死亡牛処理、リース料
	34	販売経費	子牛、成牛手数料、市場維持費(運営費)、子牛運搬、基金手数料、と畜手数料
	35	保険料	家畜共済、事故補償、農機具保険料、畜舎に係る建更、互助事業積立金
	36	租税・公課負担金	固定資産税、農地取得税、自動車税、印紙税、組合・部会費、畜政資金、各会費、賦課金、支払消費税
	37	事務費・その他	作業服、研修費、振込手数料、接待交際費、事務用品、電話料、新聞図書費、税理士費用、支払い手数料
	38	支払利息	借入金利息、延滞利息
	39	支払地代	農地賃借料
40	価格安定積立金	子牛基金、牛マルキン(積立金)、飼料基金	
41	その他肉用牛部門支出	交通費、債務保険料	

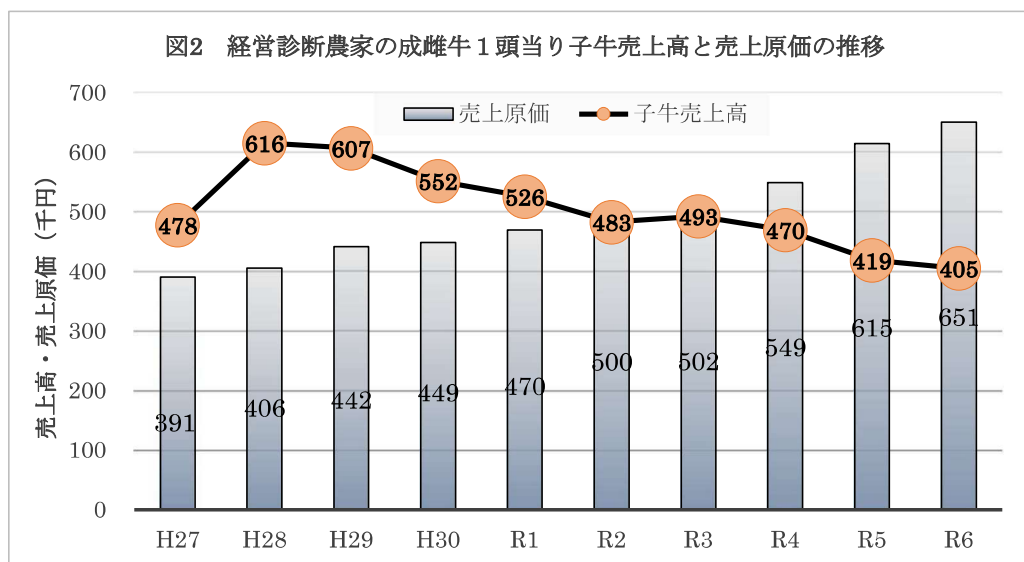
参考 1：平成 27～令和 6 年における経営診断結果の推移

1 頭数規模および所得の推移



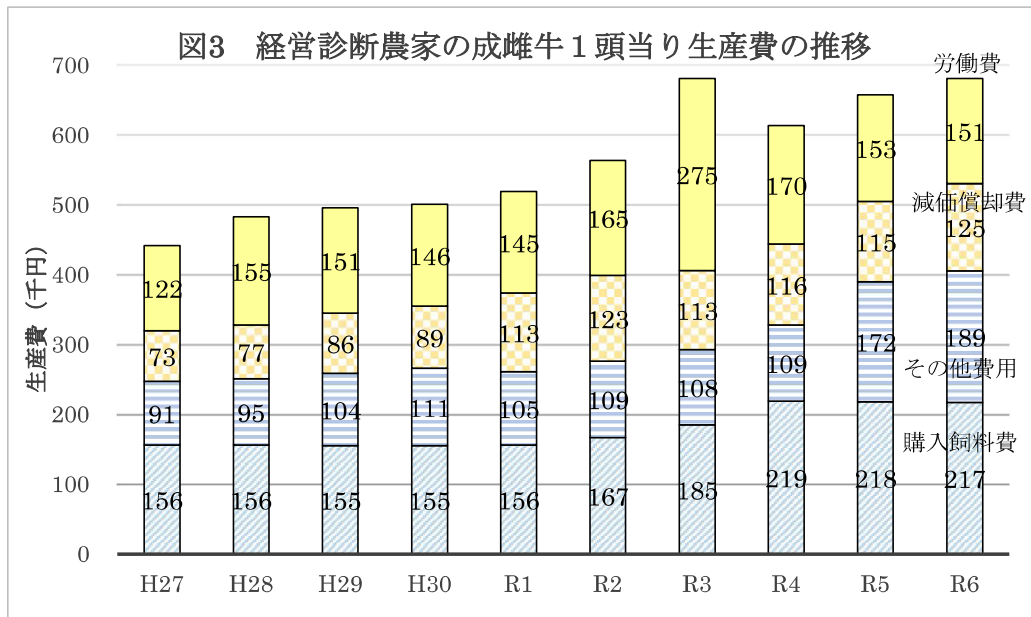
平均成雌飼養頭数は 55 頭前後で推移し、令和 3 年から 60 頭を上回っていたが、令和 6 年は 58.0 頭となった。所得率については、平成 28 年以降低下が続いており、令和 6 年は -6.3% と厳しい状況に陥っている。

2 収支構造の推移



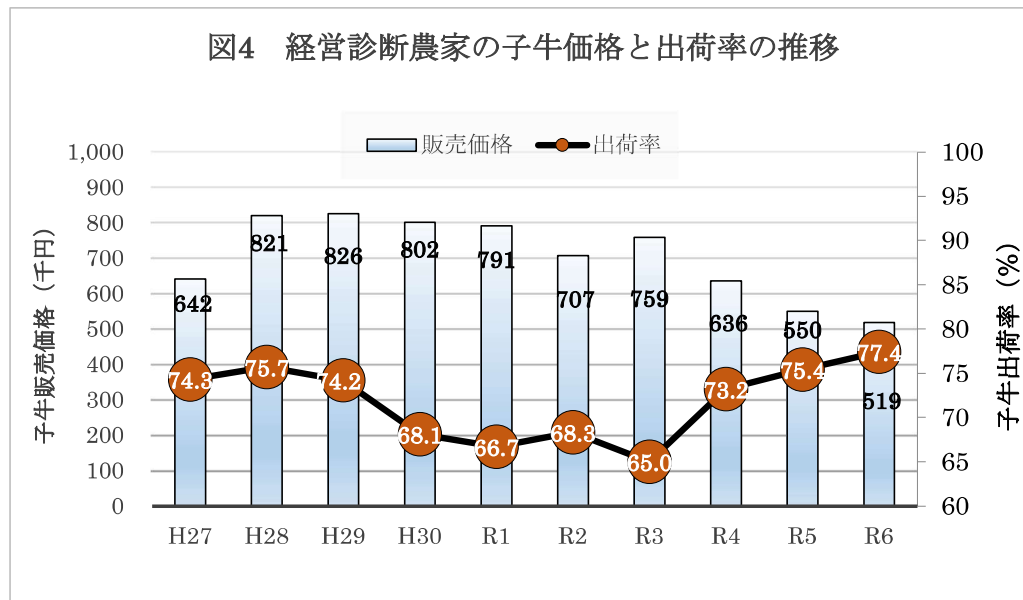
売上高は低下傾向にある一方、売上原価は上昇傾向にあり、令和 4 年以降は売上原価が売上高を上回る状況が続いている。令和 6 年における売上原価と売上高の差は成雌牛 1 頭当たり 246 千円であった。

3 生産費の推移



特に生産費の増加が顕著であり、令和2年からの飼料費急騰が高止まりしていることが主因である。令和6年の成雌牛1頭当たりの生産費は681千円に達した。

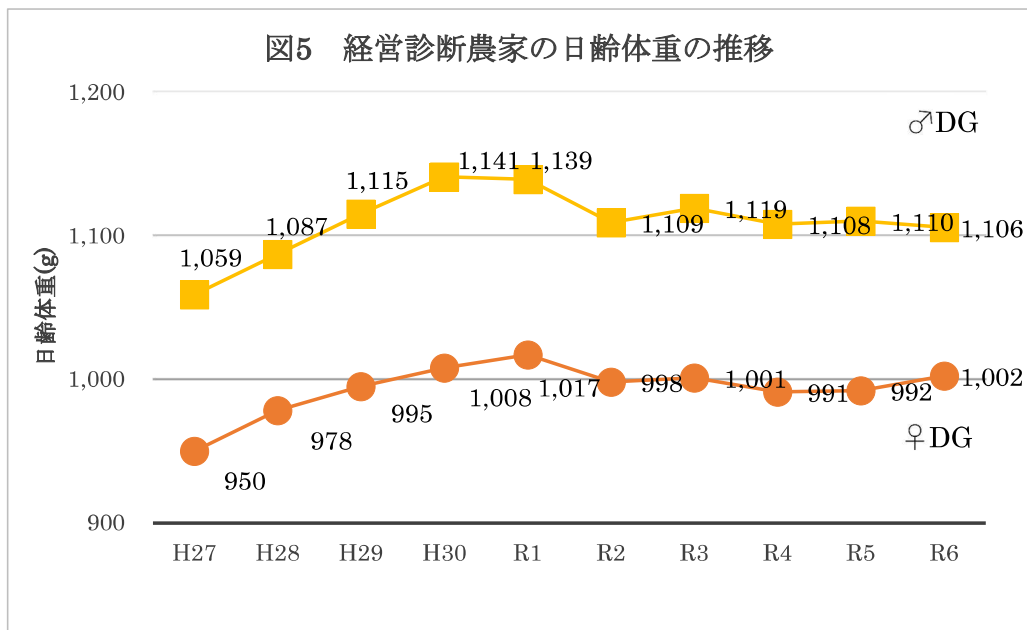
4 子牛販売および出荷率



子牛販売価格は、平成28年から令和3年まで70万円以上で推移したが、令和4年から70万円を割り込み、令和6年は51万円まで下落した。子牛出荷率(※)は低下傾向にあったが、令和4年から上昇に転じ、令和6年は77.4%となった。

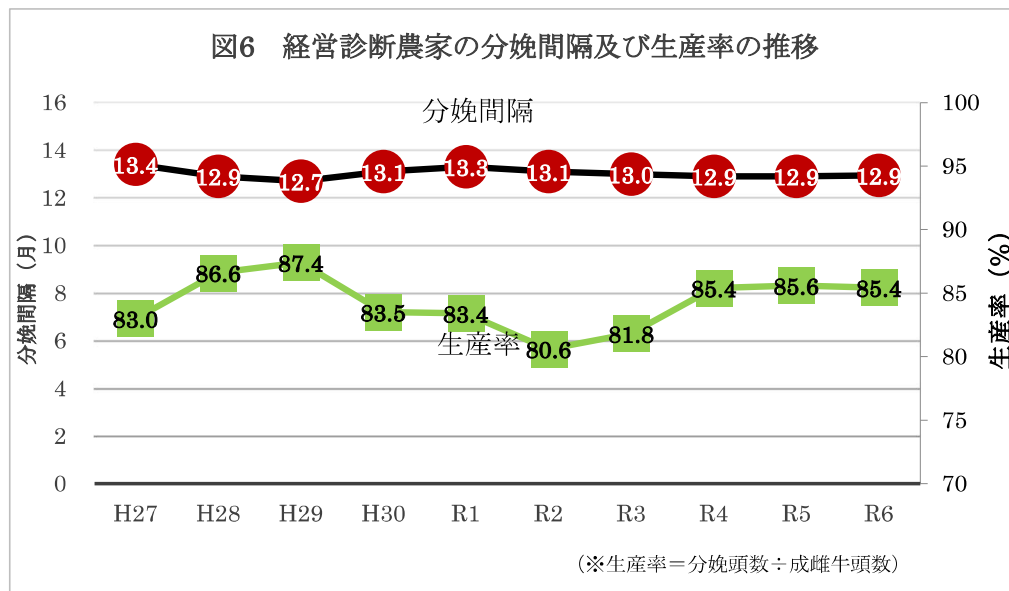
$$\text{※子牛出荷率} = \text{子牛出荷頭数(自家保留は除く)} \div \text{分娩頭数} \times 100$$

5 発育状況



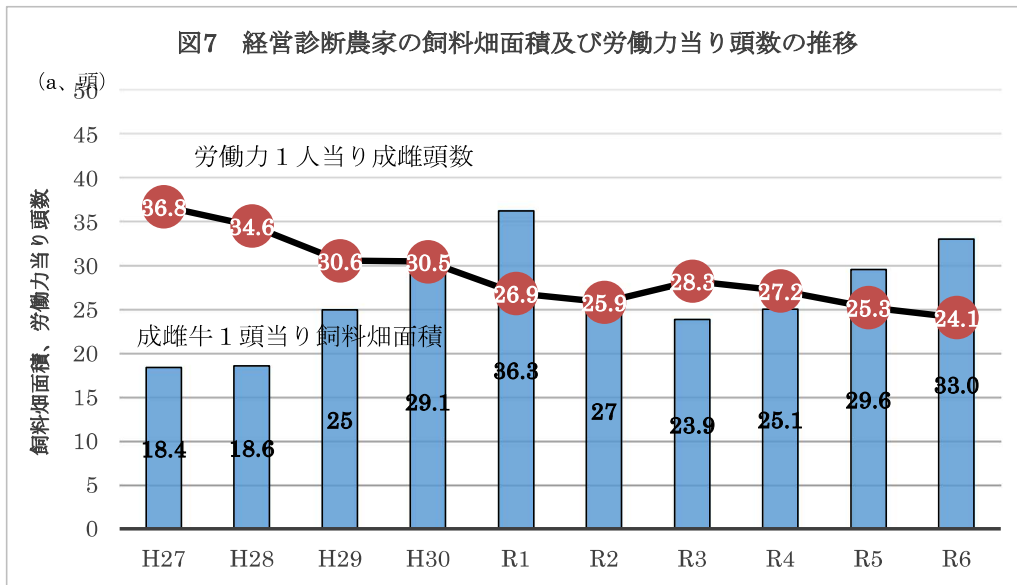
出荷子牛の日齢体重は令和元年頃まで増加していたが、近年は徐々に低下しており、令和6年は雌1,002g/日、去勢1,106g/日であった。

6 繁殖成績



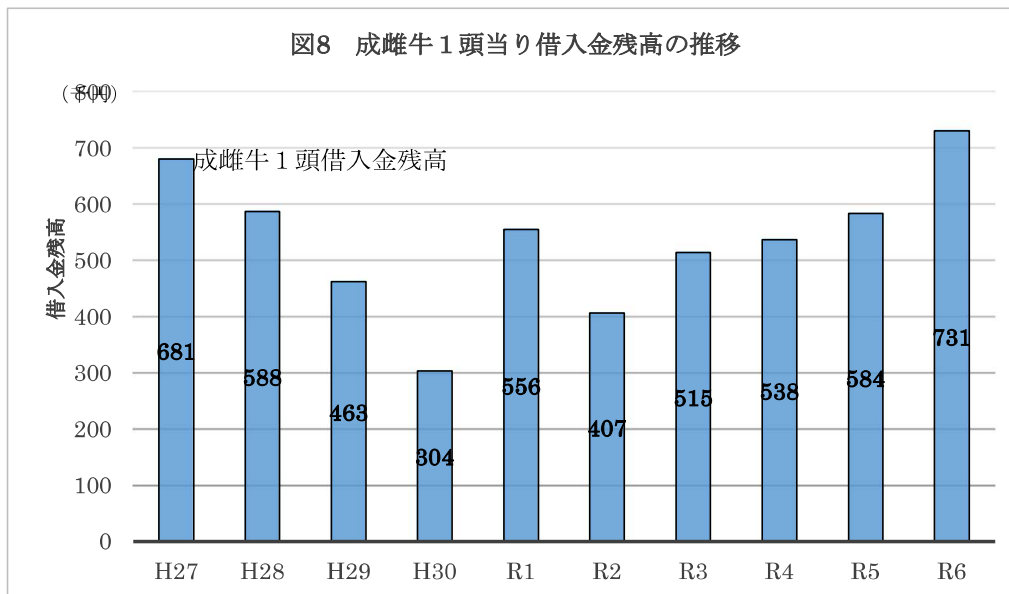
分娩間隔は概ね13.0か月で推移し、大きな変化は見られない。生産率は低下傾向にあったが、令和3年から上昇に転じ、令和6年は85.6%であった。

7 飼料畑面積および労働効率



成雌1頭当り飼料畑面積は、令和元年をピークに一時減少したが、近年は再び増加傾向にあり、令和6年は24.1aであった。また、労働力1人当り成雌頭数は33.0頭であった。

8 財務状況



成雌牛1頭当りの借入金残高は、平成30年まで低下傾向にあったが、令和元年から上昇に転じた。その後も増加が続き令和6年は731千円/頭となった。

酪農経営診断の概要

I 本県酪農の概況

本県では酪農の経営安定を目的に「鹿児島県酪農・肉用牛生産近代化計画」※¹を令和3年3月に策定し、生産基盤強化、経営安定対策、国際化への対応及び持続可能な農業推進等を踏まえた計画生産を基本として、以下の取組を推進している。

- 1 生産基盤強化のための取組
 - ①基盤強化対策
 - ②担い手の確保・育成、労働力の確保
 - ③経営資源の継承
 - ④畜産クラスターの取組等による畜産と地域の活性化
 - ⑤スマート畜産技術や飼養管理技術の向上等による生産性・収益性の向上
 - ⑥飼料基盤の強化・外部支援組織の育成
 - ⑦外部支援組織の育成・強化
- 2 経営安定のための取組
 - ①畜産経営安定対策や制度資金の活用
 - ②配合飼料価格の高騰対策
- 3 畜産環境対策
- 4 家畜衛生対策
- 5 需要に応じた生産・供給、消費者等の信頼確保

農林水産省統計情報の畜産統計(令和7年2月1日現在)によると、本県の乳用牛飼養戸数は前年より7戸減の124戸(対前年比94.7%)、飼養頭数は、11,300頭(同91.2%)、1戸当り飼養頭数は91.1頭(同99.5%)であった。

※1. 「鹿児島県酪農・肉用牛生産近代化計画」(鹿児島県 HP)

http://www.pref.kagoshima.jp/ag07/sangyo-rodo/nogyo/tikusan/basic/documents/8801_20210326114952-1.pdf

Ⅱ 経営診断の方法

経営診断の分析方法は、個別経営諸表作成支援システム（公益社団法人中央畜産会）の酪農経営分析システム版を利用し、対象農家から提出された税務申告書、乳代精算書等の書類および聞き取り調査に基づき、実績データを整理・分析した。

分析の前提条件として、家族労働費は時間単価 1,937 円、1 人当たり年間労働時間は 2,000 時間を基準とした。減価償却費の算出には定額法を採用した。

調査期間は原則として令和 6 年 1 月 1 日から同年 12 月 31 日の 1 年間で、法人経営はそれぞれの会計期間（以下「令和 6 年」）とした。

また、対象農家の正確な経営実態を同一基準で比較・分析できるようにするため、付表 1 の費目に基づいて勘定科目の仕訳を精査し、経営データの再分類を行った。

Ⅲ 経営診断事例の概要

経営診断を実施した経営体は、鹿児島県酪農業協同組合の協力により 6 件（酪農専業：6 件）で経営の概要は以下のとおりである。

1 飼養規模

平均飼養頭数は、経産牛 67.7 頭（42.0～94.6 頭）、育成牛 28.8 頭（11.4～52.1 頭）の計 96.5 頭（53.4～146.7 頭）であった。これは、県平均の 91.1 頭を上回るものの、全国平均の 114.4 頭を下回る規模であった。

2 自給飼料生産基盤

飼料生産利用面積は平均 36.4ha（13.0～60.0ha）で、借地率は 74.1%（53.3～96.7%）であった。

トウモロコシはバンカーサイロおよびスタックサイロを活用したサイレージ、イタリアンライグラスや飼料用稲等のイネ科牧草はラップサイレージとして利用されていた。

自給飼料生産に用いる機械については、トラクターの大型化や複数台の保有が進むとともに、コーンハーベスター、ロールベラー、マ

ニュアスプレッダーなどの導入も見られた。また、コントラクターの利用によって、機械コストおよび労働力の削減が図られた事例もあった。

3 労働力

6件すべてが家族労働力を中心とする経営体であり、経営主の平均年齢は44.4歳であった。また、いずれの経営体でも労働負担の軽減や余暇・休日の確保を目的として、酪農ヘルパー制度が積極的に活用されていた。さらに、同様の目的から、分娩カメラなどのICT機器も一部の経営体で導入されていた。

4 畜舎および施設機械の整備状況

(1) 飼養方式

フリーストール牛舎による放し飼い方式が2件、スタンションによる繋ぎ飼い方式4件であった。

(2) 搾乳施設

フリーストール牛舎+搾乳ロボット2件、繋ぎ牛舎+パイプラインミルクカー4件であった。

(3) 暑熱対策

夏季の暑熱対策として、飼料給与の改善(多回給与、飼料の組合せ、嗜好性の高い飼料の活用)に加え、ソーカーシステム、大型ファンによる強制送風や細霧装置等の併用もみられた。

(4) 糞尿処理・環境対策

繋ぎ牛舎では固液分離を行い、固分は堆肥化、液分は貯留槽で保管し、飼料畑への耕地還元を基本としていた。一方、フリーストール牛舎では敷料とともに掻き取り、堆積発酵・堆肥舎保管を経て耕地還元を行っていた。

規模拡大や混住化に伴う悪臭、水質汚濁、土壌汚染など環境問題に対しては、各地域の状況に応じて処理対策が講じられていた。

IV 経営診断分析結果の概要

経営診断の分析では、生産技術・収益性・安全性の各項目について、令和6年（今回）を基準とし、平成26年および令和元年との経年比較を行った。

1 生産技術

生産技術は産乳量・乳質、繁殖成績、牛群の構成、自給飼料の生産と利用および労働生産性について分析した。

(1) 産乳量・乳質

経産牛1頭あたりの平均出荷乳量は7,397kgで、全国平均8,750kgをわずかに下回っている。成分では乳脂率3.97%、無脂固形分率8.7%と、いずれも平成26年以降上昇している。細菌数の平均は3.8万/ml、体細胞数の平均は18.6万/mlであった。体細胞数については、6件すべてで30万/mlを超える月がみられた。

表1 経産牛1頭当りの出荷乳量及び乳質

項目	H26	R1	R6	比較値 ^{※3}
経産牛出荷乳量(kg)	7,891	8,924	7,397	8,750
7~10月出荷割合(%)	30.7	31.3	31.4	—
乳脂率(%)	3.80	3.91	3.97	3.93
無脂固形分率(%)	8.7	8.8	8.7	—
細菌数(万/ml)	3.6	1.6	3.8	—
体細胞数(万/ml)	21.1	19.0	24.1	—

※3：(公社)中央畜産会「畜産クラスターに係る全国実態調査-経営指標-令和7年3月」(都府県平均)

(2) 繁殖成績

対象農家の分娩間隔は平均15.5カ月(14.8~16.8カ月)であり、平成26年および令和1年の指標と比較して長期化している。令和6年には、調査対象6件すべてが牛群検定平均の14.5カ月上回った。また、受胎に要した平均種付回数は2.3回(1.6~2.6回)であった。

表 2 平均分娩間隔及び種付回数

項目	H26	R1	R6	比較値
平均分娩間隔（カ月）	14.4	15.2	15.5	14.5 ^{※4}
受胎に要した種付回数（回）	2.3	2.4	2.3	2.3 ^{※3}

※4：（一社）家畜改良事業団「乳用牛群能力検定成績速報-令和6年度-」（都府県平均）

（3）牛群の構成

対象農家では、育成牛を含む平均飼養頭数は 96.5 頭（53.4～146.7 頭）であり、育成牛率は 28.9%（21.3～35.5%）であった。経産牛の平均産次は 2.4 産（1.7～3.5 産）であった。また、経産牛の廃用率は 32.0%（14.4～41.0%）、廃用時の平均年齢は 5.8 歳（4.3～6.9 歳）であった。

表 3 飼養頭数、産次、経産牛率、育成牛率、廃用率及び廃用時年齢

項目	H26	R1	R6	比較値 ^{※4}
全飼養牛頭数（頭）	75.0	78.3	96.5	—
平均産次（産）	2.9	2.6	2.4	2.5
育成牛率（%）	31.8	29.3	28.9	—
経産牛廃用率（%）	24.1	29.0	32.0	—
廃用時年齢（歳）	5.8	6.3	5.8	5.5

（4）自給飼料の生産と利用

平均耕地面積は 36.4ha（13.0～60.0ha）で、そのうち水田は 5.2ha（0～16.0ha）であった。経産牛 1 頭当たりの延べ飼料面積は平均 57.2a（15.6～82.7a）確保されており、借地率の上昇に伴って経産牛 1 頭当たりの自給飼料生産面積も増加していた。また、生乳販売収入と購入飼料費の関係を示す乳飼比は 46.1%（39.0～52.0%）であった。

表 4 自給飼料生産面積および乳飼比

項目	H26	R1	R6	比較値 ^{※3}
耕地面積 (ha)	16.7	21.5	36.4	13.0
うち水田 (ha)	0.3	1.7	5.2	—
経産牛 1 頭当り (a)	34.7	43.2	57.2	25.2
借地率 (%)	56.9	60.4	74.1	37.2
乳飼比 (%)	52.2	44.9	46.1	62.2

(5) 労働生産性

家族経営では、家族労働費が所得として評価されるため、作業負担の軽減や省力化による労働生産性の向上が重要となる。本診断における経産牛 1 頭当たりの平均年間労働時間は 101.9 時間であり、そのうち飼養管理が 74.6% と最も大きな割合を占めていた。次いで飼料生産が 16.1%、その他作業が 9.3% となっていた。

表 5 労働時間(経産牛 1 頭当り)

項目	H26	R1	R6	比較値 ^{※3}
年間労働時間(時間)	101.8	112.6	101.9	140.0
飼養管理時間(時間)	79.0	91.8	76.0	116.0
飼料生産時間(時間)	6.9	11.7	16.4	—
その他作業時間(時間)	16.0	9.2	9.5	—

2 収益性

収益性は損益計算書および生産費用をもとに、所得の状況、経産牛 1 頭当たりの損益、生産費用について分析した。

(1) 所得について

令和 6 年の調査対象 6 戸の平均的な経営成績を見ると、所得額は 1,801 千円となった。主要指標では、従事者 1 人当たり所得が 861 千円、経産牛 1 頭当たり所得が 15 千円、所得率は 1.5% であった。

表 6 所得

項 目	H26	R1	R6	比較値 ^{※3}
酪農所得額(千円)	4,679	8,823	1,801	137
従事者1人当り所得(千円)	2,182	3,010	861	2,884
経産牛1頭当り所得(千円)	94	150	15	137
所得率(%)	10.8	12.5	1.5	10.1

(2) 損益状況

経産牛1頭当たりの平均売上高は1,118千円、平均売上原価は1,141千円であり、営業利益は平均で-228千円と赤字となった。

さらに、営業外収入などを含めた経常利益の平均は-132千円であった。

これに家族労働費を加算した経常所得(家族労働報酬を含む所得)は平均14千円となり、平成26年および令和元年と比較して低下している。

表 7 経産牛1頭当り販売収入、原価及び経常利益

単位(千円)

項 目	H26	R1	R6	比較値 ^{※3}
売上高	925	1,201	1,118	1,298
うち牛乳販売	874	1,058	1,044	1,197
うち子牛育成牛販売	51	143	74	86
売上原価	843	1,020	1,141	1,360
売上総利益	82	181	-24	-61
販売・一般管理費	157	213	204	184
営業利益	-75	-32	-228	-245
営業外収益	88	123	176	201
営業外費用	38	57	81	32
経常利益	-25	34	-132	-77
経常所得	94	150	14	137

(3) 当期生産費

経産牛 1 頭当たりの当期生産費は平均 1,237 千円であった。購入飼料費が最も多く、平均 486 千円で全体の 39% を占める。購入飼料費の金額は平成 26 年以降上昇しているものの、生産費に占める割合は低下している。

表 8 経産牛 1 頭当たりの当期生産費内訳

単位(円、%)

項目	生産費用					
	H26		R1		R6	
	金額	割合	金額	割合	金額	割合
種付料	14,037	2	15,139	1	29,224	2
もと畜費	11,624	1	20,525	2	22,037	2
購入飼料費	461,907	51	482,062	42	486,076	38
自給飼料資材費	20,914	2	24,812	2	36,349	3
労働費	132,467	15	154,687	14	191,103	15
診療・医薬品費	15,807	2	34,139	3	24,766	2
減価償却費	129,080	14	158,312	14	187,636	15
修繕費	26,964	3	57,303	5	75,932	6
その他	114,563	10	193,421	17	220,338	17
生産費用計	906,449	100	1,115,588	100	1,237,112	100

3 安全性

経産牛 1 頭当たりの期末借入金残高は 1,391 千円、年間償還負担額は 115 千円であった。財務諸表では、自己資本比率 11.1%、固定比率（長期資本）90.7% を示していた。利用している資金には、日本政策金融公庫資金、大家畜経営改善支援資金、カウビーフ円滑更新牛貸付資金などが含まれていた。

表 9 借入金残高、償還額、自己資本比率及び固定比率

項目	H26	R1	R6
経産牛 1 頭当り期末借入金残高 (千円)	517	445	1,391
経産牛 1 頭当り年間償還負担額 (千円)	87	81	115
自己資本比率 (%)	7.9	55.8	11.1
固定比率(長期資本) (%)	89.9	64.2	90.7

V 診断分析結果にみる課題・対策

酪農経営は、飼料や資材価格の高止まりが続くことで、収支の改善が難しい状況にある。濃厚飼料や光熱費などの経費が増加傾向にあり、経営にかかる負担は長期化している。こうしたコスト構造は、酪農家にとって慢性的な経営圧力となり、経営全体に影響を及ぼしている。供給側の負担が大きくなる一方で、需要面では、飲料や食品の選択肢が広がるなかで飲用牛乳の消費量が長期的に減少している。

こうした現状を踏まえ、現地指導などを通じて優先的に取り組むべき課題として、以下の点が挙げられる。

1 生産技術の向上

(1) 乳量・乳質の改善

乳牛の泌乳能力は、遺伝的要因と環境的要因の双方から影響を受ける。しかし、最も重要なのは、その能力を十分に発揮させるための飼養環境の整備と管理技術の向上である。また、乳価の季節別格差金や乳質格差金制度を有利に活用するためには、夏季の需要期における生乳生産性の向上が求められる。

近年は猛暑の影響により、個体の乳量減少だけでなく、受胎率低下に伴う牛群全体の乳量減少も懸念されている。こうした状況を踏まえると、今後は各農家の経営実態に応じた暑熱対策を検討し、夏季の生産性低下を最小限に抑える取り組みが一層重要になる。

一方、食の安全が重視される現在、生乳には安定した品質管理と高

い安全性の確保が求められている。そのためには牛体や牛舎の衛生環境を整えるとともに、個体ごとの生乳状況を早期に把握し、異常があれば迅速に対応できる管理体制の構築が求められる。特に乳房炎の早期発見を含め、日常的な牛群管理では個体の健康状態に常に注意を払う必要がある。

また、乳質向上には、消費者ニーズに応える高品質な生乳を安定的に生産する体制が不可欠であり、生産・加工・流通の連携が重要となる。生産現場では、飼養管理や搾乳時の衛生管理を徹底し、乳成分、細菌数、体細胞数などの指標に配慮した適切な管理が求められる。

量・質のいずれについても、要因と結果の因果関係を検証しながら、経営体の飼養管理状況を的確に把握し、具体的な対応策を実施することが必要である。

(2) 繁殖成績の向上

酪農経営において、繁殖成績の向上は泌乳と密接に関係し、安定した収入を確保するうえで重要な要素である。本分析では、平均分娩間隔の長期化がみられた。主な要因としては、発情兆候の微弱化による見逃し、適期授精の遅れ、人工授精後の受胎不良が挙げられる。さらに近年は、猛暑による受胎率低下も懸念されている。

これらを踏まえ、以下の繁殖技術のポイントが重要となる。

①分娩後の発情発見の徹底

生産者自らが繁殖記録を正確かつ迅速に記帳し、日常の搾乳や清掃時の観察を徹底する。労働力不足や発情兆候の微弱な個体の見逃しを防ぐため、発情検知センサーなどの ICT 機器の導入・活用も検討する。

②周産期の栄養・生殖器管理

乾乳期から分娩、泌乳初期にかけてのステージごとの適切な栄養管理を行い、繁殖障害を予防する。加えて、暑熱や寒冷といった環境条件に応じた栄養管理も重要となる。

③早期診断と専門家との連携

早期妊娠診断を実施し、空胎期間を短縮する。種付けを 2～3 回

繰り返しても受胎しない場合は、繁殖検診を積極的に活用し、分娩後 100 日以内の受胎を目指す。

④暑熱対策

施設環境に対する暑熱対策は多様であるが、導入に関しては、一時的な効果だけでなく、長期的な効果や費用対効果の検証が必要である。導入農家や関係機関の意見も参考にしつつ、暑熱対策に対応した補助事業の活用も検討する。

(3) 牛群の構成

経産牛の供用期間を延長することは、年間乳牛償却費の低減や牛群全体の乳量増加につながり、経営改善に大きく寄与する。そのため、繁殖障害や分娩後の事故・疾病に十分留意し、供用期間を延ばす取り組みが求められる。

現状の牛の耐用年数は、「県酪農・肉用牛近代化計画」で目標とする 4.0 産次よりかなり短く、特に若年齢での更新や家畜疾病が多く、経済的損失は多大である。このような状況を改善するには、疾病の予防・早期発見、日常の健康観察など、日頃の管理の工夫と実践が不可欠である。

こうした疾病や管理上の課題に加え、家畜事故は経済的損失が甚大であるため、日常的に多発する疾病の早期発見・早期治療など、衛生管理の徹底がより重要となる。また、ワクチン接種のプログラム化も事故や疾病の発生を抑えるうえで有効である。

また、更新牛については、高能力牛が揃ってくると自家育成による確保が可能となるため、低能力牛の計画的淘汰、育成牛の適正な発育を促す栄養管理、肢蹄の強化、繁殖管理の徹底が必要である。

なお、育成牛の必要飼養頭数は、初産月齢、泌乳供用月数、経産牛頭数から以下の式で算出できる。

※育成牛保有頭数 = 初産月齢 ÷ 供用月数 × 経産牛頭数

(計算例) 令和 5 年の 6 件の平均経産牛飼養頭数 65 頭

初産月齢 25 カ月齢、供用月数 50 カ月として計算した場合

$25 \div 50 \times 65 = 32.5$ 頭 : 33 頭

(4) 飼料の給与体系と飼養管理

牛乳販売収入に対して購入飼料費の割合が高くなると乳飼比が上昇し、経営を圧迫する。そのため、生産費用の低減に向けて、飼料給与設計や給与方法の見直しが必要となる。

ア 乳牛の養分要求量および養分供給量の算出

乳用牛に適正な飼料給与を行うためには、日本飼養標準・乳牛（2017年版）に基づいた飼料設計が重要である。搾乳牛、乾乳牛、育成牛ごとに、1日に必要なエネルギー（TDN：可消化養分総量）などの養分要求量を算出し、同標準を用いて養分供給量を求める。



養分供給量の算出には、同標準に付属する「飼料診断プログラム」を利用すると便利である。濃厚飼料、粗飼料、粕類等の飼料リストから、対象飼料を選択し、給与量を入力することで、1日当りの養分供給量を容易に算出できる（図1）。

図1 飼料診断プログラム入力画面

イ ボディコンディションスコア（BCS）

BCSは単なる肥満度の指標ではなく、飼養管理における実用的なツールである。泌乳ステージに応じた体脂肪の蓄積状況を把握することで、適切な飼養管理を検討でき、周産期病の予防など健康な牛群管理につながる。

乾乳期に入ってから飼料給与を制限してBCSを調整することは、流産や死産のリスクを高める。そのため、BCSの調整は乾乳

前の泌乳後期までに行うことが望ましい、具体的には泌乳後期にBCSを判定し、過肥傾向であれば濃厚飼料の給与量を制限するなどして、乾乳前までに適正なBCSへ調整する。乾乳期を良好なBCSで維持することが、次産での泌乳能力の発揮、健康状態の維持、繁殖成績の向上につながる。

ウ 飼料給与管理

現在の酪農経営では多様な飼養形態がみられ、乳牛の多頭化、高泌乳化、フリーストール飼養などの牛群管理に対応した飼料給与が求められる。エネルギーが不足すると、生体維持に必要な分まで確保できなくなり、牛の状態に悪影響が及ぶため、適切なエネルギー供給が重要である。

また、群としての管理が重要である一方で、個体ごとに乳牛の能力や泌乳ステージに応じた適正な飼料給与を行うことも欠かせない。分娩前後の事故防止の観点からは、育成牛、乾乳牛、搾乳牛など各ステージに応じた飼料成分の把握と、適正な飼料設計に基づく給与が求められる。

さらに、暑熱対策として涼しい時間帯の給与を増やすことが有効であり、ルーメン内発酵の安定を維持する給与管理にも配慮する必要がある。加えて、自給飼料の活用を含めた飼料コストの抑制についても十分に検討することが重要である。

(5) 牛群検定の利用

本県では、鹿児島県酪農業協同組合や関係機関の取り組みが進んだことで、一般社団法人家畜改良事業団が実施する牛群検定への参加農家率は70%を超えている。牛群検定には一定の利用料金が必要となるものの、乳量や乳質をリアルタイムで把握できるほか、繁殖成績のデータも取得でき、成績結果にはポイントなども記載されていることから、乳量・乳質の向上や繁殖成績の改善に向けて有効なツールとして活用されている。また、これまで経験や感覚に頼って判断していた飼養管理の状況を、検定によって得られる数値で客観的に把握できるようになっており、個体ごとの健康状態の変化や飼料設計の適否、繁殖の遅れなどを早期に捉え

る助けとなっている。蓄積された情報は牛群全体の傾向を読み解く基盤となり、更新計画や改良の方向性を合理的に検討する際にも役立つ。

こうした牛群検定の効果を十分に発揮するためには、農家が検定の意義や活用方法を理解し、日々の管理に生かせるようにすることが重要である。そのため、検定結果の見方や改善につながる活用事例を分かりやすく伝えるなど、農家への周知を丁寧に進める必要がある。また、関係機関においても基本的な活用ポイントを共有しておくことで、農家からの相談に対して一貫した助言が可能となり、結果として農家の取り組みを後押しすることにつながる。今後は、農家への利用促進と正確なデータの蓄積に加え、関係機関を含めた情報共有を適切に行いながら、牛群検定の価値をさらに高めていくことが求められる。

(6) 自給飼料生産

配合飼料の価格が高止まりする中で、自給飼料の生産量は増加している。これに伴い、経産牛1頭当たりの購入飼料費は年々減少している一方で、自給飼料にかかる資材費は増加しており、その傾向が数値にも表れている。

自給飼料の作付体系としては、春夏にトウモロコシ、秋冬にイタリアンライグラスを中心とした体系が望ましい。特にトウモロコシはサイレージとして利用されることが一般的で、診断事例でも多くの農家がバンカーサイロを使用していた。しかし近年は野生動物による被害が大きく、獣害対策は自己流で設置方法を誤っているケースも見られるため、被害が深刻な農家は関係機関に指導を仰ぐことが重要である。また、農家単独では対応が難しい場面も増えており、地域全体で取り組む体制づくりが求められている。

一方で、粗飼料基盤の拡大や省力化を目的として、農業機械の大型化・近代化が進んでいる。機械導入には高額な投資が必要となるため、導入前の綿密な計画と検討が不可欠である。また、導入後のメンテナンスも重要で、適切な格納場所の確保や利用後の整備・点検を徹底し、実働年数を延ばしてコストを抑える視点が求められる。

さらに、離農農家の畑を活用して作付面積を拡大する取り組みや、耕種農家から土地の提供を受けて WCS を生産する事例も増えている。これらは、今後の経営基盤を強化するうえで重要な手法となっている。

2 家畜の自衛防疫意識の向上

自分の家畜は自分で守ることが原則である。口蹄疫が発生した際には、外部から病原体を持ち込まないように、徹底した消毒を実施した。現在は多頭化が進み、いつ・どこで・どのような病気が発生してもおかしくない状況にあるため、飼養衛生管理基準を確実に守ることが求められている。

加えて、農場内外の動線管理や人・車両の出入りの記録、飼料や資材の搬入経路の見直しなど、日常的なリスク管理の徹底が不可欠である。労働者一人ひとりが衛生管理の重要性を理解し、手洗いや防護服の着脱、長靴の交換といった基本的な行動を確実に実践することも、病原体の侵入を防ぐうえで大きな効果を持つ。

また、施設や設備のバイオセキュリティを強化することも重要であり、消毒ゲートの設置や野生動物の侵入防止策、換気システムの改善など、物理的な対策が農場の安全性を高める。さらに、家畜の健康状態を日常的に把握し、異常があれば早期に獣医師と連携して対応する体制を整えることが、感染拡大の防止につながる。ICT 機器を活用した個体管理やセンサー技術の導入により、より精度の高い健康モニタリングも可能になっている。

これらの取り組みを継続的に行うためには、HACCP の考え方を取り入れ、農場内のどこにリスクがあるかを把握し、重点的に管理すべき点を明確にしておくことが有効である。日々の作業を記録し、定期的に見直すことで、衛生管理の抜け漏れを防ぎ、農場全体の防疫体制をより確実なものにできる。

さらに、地域全体での連携も欠かせない。農家同士や関係機関と情報を共有し、地域ぐるみで迅速かつ的確な防疫対応ができる体制を整

えることが、重大な疾病発生時の被害を最小限に抑える鍵となる。

3 糞尿処理の適正処理

畜産における糞尿処理は、良質な堆肥化や液肥としての土地還元を基本とする。しかし、一般住民との混住が進む地域社会では、規模拡大に伴い、飼養環境の改善、畜産環境対策の徹底、そしてそれを支える施設・機械の整備が不可欠となっている。

今後は、持続可能性と資源循環を前提に、家畜排泄物を地域全体で有効活用する仕組みづくりがより重要になる。堆肥づくり・土づくり・草づくりを一体的に進め、地域全体で循環型農業を実現していくことが求められる。

こうした地域レベルでの循環の確立は、畜産が社会と調和しながら発展していくための基盤となり、産業全体の方向性を見直す契機にもなる。

そのうえで、今後の畜産には、環境保全と生産性向上を両立させる「環境調和型畜産」への転換が不可欠である。家畜排泄物の適正処理と有効利用を軸に、地域と共生しながら持続可能な畜産を構築していくことが求められる。

4 ヘルパー制度の活用

酪農経営では、毎日の搾乳作業をはじめとする業務の拘束性が極めて高く、経営者や家族の負担は大きい。こうした状況の中で、経営にゆとりを生み、持続可能な酪農を実現するためには、酪農ヘルパー制度の一層の活用が不可欠である。

しかし、ヘルパー制度を健全に継続していくためには、ヘルパー人材の安定的な確保と、現場で必要とされる技術を身につけるための研修体制の充実が求められる。加えて、働きやすい環境づくりや地域での支援体制の強化も重要となる。

こうした取り組みは、ヘルパー制度が酪農経営全体にもたらす効果を十分に発揮させるために欠かせない。ヘルパーの活用により、経営

者は日々の作業負担から一定の余裕を確保でき、飼養管理の改善、経営計画の見直し、設備更新の検討、労務管理の整備など、経営全体の質を高めるための取り組みに時間を振り向けることが可能となる。また、突発的な労働力不足への備えが強化されることで、経営の安定性が高まり、長期的な事業継続にも寄与する。こうした意義を踏まえ、制度を持続的に活用できる環境を整えることが、地域酪農の発展にとって重要である。

5 正確な記録・記帳に基づく経営分析

近年の酪農経営では、生産費用の上昇に伴い売上原価も上昇傾向にあり、経営状況を的確に把握することが求められている。安定した経営を実現するためには、日々の生産活動や金銭出納を正確に記録し、その積み重ねをもとに現状を把握し、どこに無駄や改善の余地があるかを見つけていくことが欠かせない。記録した内容を定期的に見直し、改善策を実行し、その結果を再度確認するという流れを繰り返すことで、生産コストの低減につながる取り組みが継続的に進む。このような取り組みを継続することで、感覚に頼らない再現性のある経営改善が可能となり、結果として利益を高めることにつながる。そして、こうした改善を確実に進めるためには、経営者自身が自らの経営実態を正確に把握することが不可欠である。つまりは、酪農家には牛を育てる技術と同じように、経営を見通す力が求められるのである。

6 投資と経営改善

酪農経営における投資は、労働生産性の向上や規模拡大、飼養環境の改善など、経営の発展に向けて行われるものである。しかし、投資には資金負担とリスクが伴うため、経営の安全性を損なわないよう慎重な検討が求められる。投資効果を確実にするためには、資金管理の徹底や、施設・機械・牛の耐用年数をできるだけ延ばす工夫など、投下した資金を長く活かす視点が重要となる。また、投資後に必要となる維持管理費や修繕費、作業負担の変化なども踏まえ、総合的に費用

対効果を判断することが求められる。

さらに、牛や施設・機械の導入に際して資金を借り入れる場合には、将来の収支を見通した無理のない償還計画を立てることが不可欠である。特に規模拡大を伴う投資では、一時的な経営不振が不良債権化につながるリスクがあるため、より慎重な資金計画が必要となる。経営者自身が事業計画を作成し、投資の効果とリスクを見極めるとともに、関係機関からの情報提供や経営支援を活用することで、より確実性の高い投資判断が可能となる。投資は経営の将来を左右する大きな決断であるため、経営ビジョンとの整合性や地域の飼料基盤、労働力の確保状況、市場動向なども踏まえ、最適なタイミングと規模を見極めることが求められる。

【酪農経営診断結果集計表】

表 12 酪農経営分析結果1(経営規模、自給飼料、繁殖、乳生産性)

項 目		H26	R1	R6	
労働力	家族数	人	6.0	5.3	3.3
	酪農従事人数	人	2.8	2.8	2.8
	酪農部門家族労働投下人数	人	2.1	2.5	3.5
	経営主年齢	歳	43.2	50.5	44.4
土地	水田	ha	0.3	1.7	5.2
	うち借地	ha	0.1	1.7	4.5
	畑	ha	10.8	9.9	31.3
	うち借地	ha	7.7	7.0	20.9
	耕地計	ha	11.1	11.6	36.4
	うち借地	ha	7.8	8.7	25.4
	借地率	%	56.9	60.4	74.1
牛群の構成	経産牛	頭	50.0	55.3	67.7
	育成牛	頭	25.0	23.0	28.8
	計	頭	75.0	78.3	96.5
	育成牛率	%	31.8	29.3	28.9
	経産牛率	%	68.2	70.7	71.1
	経産牛死亡・廃用数	頭	12.4	16.5	21.3
	子牛出荷数(育成牛含む)	頭	32.6	35.0	29.8
	平均廃用時年齢	歳	5.8	6.3	5.8
	廃用牛/経産牛率	%	24.1	29.0	32.0
自給飼料	延べ作付面積	a	1,670	2,150	3645
	経産牛 1 頭当り	a	34.7	43.2	57.2
	経産牛 1 頭当り生産費	円	20,682	24,211	36,349
	10a当り生産費	円	6,203	10,807	8,301
繁殖成績	平均産次数(期末)	産	2.9	2.6	2.4
	平均分娩間隔	力月	14.4	15.2	15.5
	受胎種付回数	回	2.3	2.4	2.3
牛乳生産性	年間産乳量	kg	398,783	505,712	513,972
	経産牛 1 頭当り	kg	7,891	8,924	7,397
	7~10 月出荷乳量	kg	123,177	155,931	159,669
	7~10 月出荷乳割合	%	30.7	31.3	31.4
乳質	平均乳脂率	%	3.80	3.91	3.97
	平均無脂固形分率	%	8.7	8.8	8.7
	細菌数	万/ml	3.6	1.6	3.8
	体細胞数	万/ml	21.1	19.0	24.1
	平均乳価	円	110.7	118.8	140.7

表 13 酪農経営分析結果2

項 目		H26	R1	R6	
収益性分析	経産牛1頭当り牛乳販売収入	円	874,323	1,058,022	1,044,182
	経産牛1頭当り子牛育成牛販売収入	円	50,646	142,714	73,669
	経産牛1頭当り購入飼料費	円	461,907	482,062	486,076
	経産牛1頭当り年間産乳差益	円	412,416	575,960	558,107
	年間酪農所得額	円	4,678,744	8,822,866	1,801,152
	従事者1人当り所得	円	2,181,955	3,009,720	860,864
	経産牛1頭当り売上高	円	924,970	1,200,736	1,117,852
	経産牛1頭当り所得	円	94,118	150,003	14,962
	牛乳100kg当り売上高	円	11,731	13,420	15,051
	牛乳100kg当り所得	円	1,276	1,685	245
	所得率	%	10.8	12.5	1.5
	経産牛1頭当り売上総利益	円	81,748	180,937	-23,517
	経産牛1頭当り経常利益	円	-25,199	34,205	-132,245
経常利益率/売上	%	-2.2	2.6	-12.6	
乳飼比(購入飼料費÷牛乳販売収入)		%	52.2	44.9	46.1
生産性	年間労働	時間	5,144	6,153	6,859
	家族労働	時間	4,713	4,995	4,990
	雇用労働	時間	431	1,158	1,868
り労働生産性	経産牛1頭当り飼養管理	時間	79.0	91.8	76.0
	飼料生産	時間	6.9	11.7	16.4
	その他(糞尿処理等)	時間	16.0	9.2	9.5
	年間労働	時間	101.8	112.6	101.9
経産牛1頭当り当期生産費	種付料	円	14,037	15,139	29,224
	もと畜費	円	11,624	20,525	22,037
	購入飼料費	円	461,907	482,062	486,076
	労働費	円	132,467	154,687	191,103
	診療・医薬品費	円	15,807	34,139	24,766
	減価償却費	円	129,080	158,312	187,636
	その他	円	141,527	250,726	296,270
	生産費用計	円	906,449	1,115,589	1,237,112

表 14 酪農経営分析結果3

項 目		H26	R1	R6	
(経産牛1頭当りコスト) 原価分析	総原価	円	1,038,440	1,289,590	1,426,267
	生産原価	円	792,576	877,084	1,067,699
	購入飼料費	円	461,907	482,062	486,076
	自給飼料費	円	20,914	23,949	36,349
	労働費	円	132,467	154,687	191,103
	うち家族労働費	円	119,317	115,798	146,055
	減価償却費	円	129,080	158,312	187,636
	家族労働費を除く総原価	円	919,123	1,173,791	1,280,212
	家族労働費を除く生産原価	円	673,259	761,286	921,644
(牛乳100kg当りコスト) 原価分析	総原価	円	13,118	14,436	19,360
	生産原価	円	10,005	9,904	14,525
	購入飼料費	円	5,779	5,323	6,492
	自給飼料費	円	279	287	496
	労働費	円	1,686	1,729	2,728
	うち家族労働費	円	1,519	1,316	2,108
	減価償却費	円	1,639	1,742	2,448
	家族労働費を除く総原価	円	11,599	13,120	17,252
	家族労働費を除く生産原価	円	8,486	8,588	12,416
原価 分析	乳価対総原価比率	%	118.5	121.5	137.8
	乳価対生産原価比率	%	90.4	83.3	103.4
財務 安定性	期末借入金	円	26,911,832	25,359,220	116,624,216
	期間償還金	円	4,241,347	5,143,287	8,965,454
	期間支払利息	円	403,496	338,995	763,229
財務安定性 (経産牛1頭 当)	借入金残高	円	517,354	445,291	1,391,466
	年間償還金	円	87,113	80,932	115,315
	支払利息	円	7,831	6,865	9,037
財務 安定性	売上対支払利息率	%	0.8	0.4	0.7
	固定比率/自己資本	%	-213.1	124.9	-229.2
	固定比率/長期資本	%	89.9	64.2	90.7
	自己資本比率	%	7.9	55.8	11.1
子牛 育成牛販売	子牛・育成牛販売頭数	頭	32.6	35.0	29.8
	子牛・育成牛販売価格	円	2,532,777	8,222,418	5,009,171
	1頭当り価格	円	79,868	233,388	174,264

表 15 損益計算書(経産牛 1 頭当り)

(単位:円)

費目		H26	R1	R6
売上高	牛乳販売収入	874,323	1,058,022	1,044,182
	子牛育成牛販売収入	50,646	142,714	73,669
	計	924,970	1,200,736	1,117,852
売上原価	期首飼養牛評価額	94,699	96,860	79,260
	当期生産費合計	906,449	1,115,589	1,237,113
	期中経産牛振替額	69,271	94,671	119,456
	期末飼養牛評価額	88,656	97,979	55,548
	売上原価	843,222	1,019,798	1,141,369
売上総利益		81,748	180,938	-23,517
販売一般管理費	販売経費	97,624	108,428	111,447
	保険料	33,812	36,003	51,336
	租税公課・諸負担	13,960	24,470	24,478
	事務費・その他	11,446	44,188	16,809
	計	156,842	213,090	204,069
営業利益		-75,094	-32,152	-227,586
営業外収益	受取利息	1	13	48
	奨励金・補填金	55,703	86,337	63,946
	経産牛処分益	14,280	18,288	12,687
	その他	18,287	18,421	99,491
	計	88,271	123,059	176,171
営業外費用	支払利息	7,831	6,865	8,456
	支払地代	9,656	11,706	22,700
	価格安定積立金	3,430	12,215	12,167
	経産牛処分損	12,313	21,948	36,458
	その他	5,146	4,359	1,257
	計	38,376	57,092	80,829
経常利益		-25,199	33,816	-132,245
特別利益		0	0	1,151
当期純利益		-25,199	33,816	-131,094
経常所得		94,118	150,003	13,811
当期純所得		94,118	150,003	14,962

1) 計、売上原価、利益、所得は全事例の平均値のため、各縦の計算値と合致しない場合あり

表 16 損益計算書(牛乳 100 kg当り)

(単位:円)

費目		H26	R1	R6
売上高	牛乳販売収入	11,067	11,858	14,072
	子牛育成牛販売収入	664	1,562	979
	計	11,731	13,420	15,051
売上原価	期首飼養牛評価額	1,218	1,106	1,042
	当期生産費合計	11,486	12,497	16,726
	期中経産牛振替額	864	1,004	1,538
	期末飼養牛評価額	1,171	1,133	726
	売上原価	10,669	11,467	15,504
売上総利益		1,062	1,953	-453
販売一般管理費	販売経費	1,232	1,202	1,489
	保険料	427	404	710
	租税公課・諸負担	173	281	330
	事務費・その他	143	465	244
	計	1,975	2,352	2,773
営業利益		-913	-399	-3,225
営業外収益	受取利息	0	0	1
	奨励金・補填金	735	963	863
	経産牛処分益	184	201	165
	その他	225	221	1,403
	計	1,144	1,385	2,431
営業外費用	支払利息	93	74	108
	支払地代	126	138	305
	価格安定積立金	47	130	154
	経産牛処分損	148	234	503
	その他	60	47	16
	計	473	623	1,084
経常利益		-243	363	-1,878
特別利益		0	0	15
当期純利益		-243	363	-1,863
経常所得		1,276	1,685	230
当期純所得		1,276	1,685	245

1) 計、売上原価、利益、所得は全事例の平均値のため、各縦の計算値と合致しない場合あり

表 17 生産費用(経産牛 1 頭当り)

(単位:円)

費 目		H26	R1	R6	
当 期 生 産 費 用	種付料	14,037	15,139	29,224	
	もと畜費	11,624	20,525	22,037	
	購入飼料費	461,907	482,062	486,076	
	自給飼料費資材	20,914	24,812	36,349	
	敷料費	698	13,528	7,216	
	労 働 費	雇用	13,150	38,888	45,048
		家族	119,317	115,798	146,055
		計	132,467	154,687	191,103
	診療・医薬品費	15,807	34,139	24,766	
	電力・水道費	17,375	26,070	36,689	
	燃料費	21,825	24,826	36,934	
	減価 償却 費	建物・構築物	13,802	24,559	48,030
		機器具・車両	47,320	44,286	50,063
		家畜	67,958	89,468	89,543
		計	129,080	158,312	187,636
	修繕費	26,964	57,303	75,932	
	小農具費	2,274	1,360	7,999	
消耗諸材料費	27,077	38,975	23,427		
賃料料金・その他	24,401	63,852	71,725		
当期生産費用合計	906,449	1,115,588	1,237,112		
期首飼養牛評価額	94,699	96,860	79,260		
期中経産牛振替額	69,271	94,671	119,456		
期末飼養牛評価額	88,656	97,979	55,548		
子牛育成牛販売収入	50,646	142,714	73,669		
副産物価額	0	0	0		
生産原価	792,576	877,084	1,067,699		

1) 計、売上原価、利益、所得は全事例の平均値のため、各縦の計算値と合致しない場合あり

表 18 生産費用(牛乳 100 kg当り)

(単位:円)

費 目		H26	R1	R6	
当 期 生 産 費 用	種付料	173	170	369	
	もと畜費	132	228	264	
	購入飼料費	5,779	5,323	6,492	
	自給飼料費資材	279	287	496	
	敷料費	10	144	93	
	労 働 費	雇用	167	413	620
		家族	1,519	1,316	2,108
		計	1,686	1,729	2,728
	診療・医薬品費	193	376	314	
	電力・水道費	217	289	481	
	燃料費	283	287	522	
	減価 償却 費	建物・構築物	168	272	600
		機器具・車両	588	487	642
		家畜	884	982	1,206
		計	1,639	1,742	2,448
	修繕費	368	671	1,065	
	小農具費	30	15	117	
	消耗諸材料費	346	433	324	
	賃料料金・その他	351	803	1,016	
当期生産費用合計	11,486	12,498	16,726		
期首飼養牛評価額	1,218	1,106	1,042		
期中経産牛振替額	864	1,004	1,538		
期末飼養牛評価額	1,171	1,133	726		
子牛育成牛販売収入	664	1,562	979		
副産物価額	0	0	0		
生産原価	10,005	9,905	14,525		

1) 計、売上原価、利益、所得は全事例の平均値のため、各縦の計算値と合致しない場合あり

(酪農)付表 1 酪農経営診断における勘定科目

	番号	勘定科目	取引内容
収 益	7	堆肥販売・交換	
	8	預託料	
	9	奨励金・補填金	加工原料乳生産者補給金、飼料補てん金、助成金、奨励金、削蹄等補助金、乳価調整金
	10	受取利息	
	11	その他酪農部門収入	事故補償金、受取共済金
	12	酪農部門以外の農業収入	
	13	農外収入	
費 用	20	もと畜費	もと畜代
	22	種付料	精液代、授精料、授精技術料、液体窒素、授精器具代
	24	自給飼料資材費	種子、肥料費、堆肥、ラップ資材、除草剤、農薬
	25	敷料費	オガコ、もみがら、バカス、砂
	26	雇用労賃	雇用労賃、福利厚生費、賄い費、交通費、ヘルパー
	27	診療・医薬品費	治療代、削蹄料、除角料、薬品、消毒薬、衛生資材、共同防除負担金
	28	電気・水道費	電気料、水道料
	29	燃料費	軽油、ガソリン、重油、ガス
	30	修繕費	
	31	小農具費	10万円未満の農機具
	32	消耗諸材料費	オモテ、綱、洗剤などの消耗品
	33	賃料料金・その他生産資材	登記・登録料、機械利用料、預託料、牛群検定料、死亡牛処理、リース料、作業委託料
	34	販売経費	生乳出荷費用、子牛運搬、と畜手数料
	35	保険料	家畜共済、事故補償、農機具車輛保険料、畜舎建更
	36	租税・公課負担金	固定資産税、農地取得税、自動車税、印紙税、組合・部会費、畜政資金、各会費、賦課金、支払消費税
	37	事務費・その他	作業服、研修費、振込手数料、接待交際費、事務用品、電話料、新聞図書費、税理士費用
	38	支払利息	借入金利息、延滞利息
	39	支払地代	農地賃借料
40	価格安定積立金	配合飼料価格安定積立金、季節乳価別調整金、体細胞格差金	
41	その他酪農部門支出	債務保険料	

参考：平成27～令和6年における経営診断結果の推移
 （※令和5年は欠損値のため表示なし）

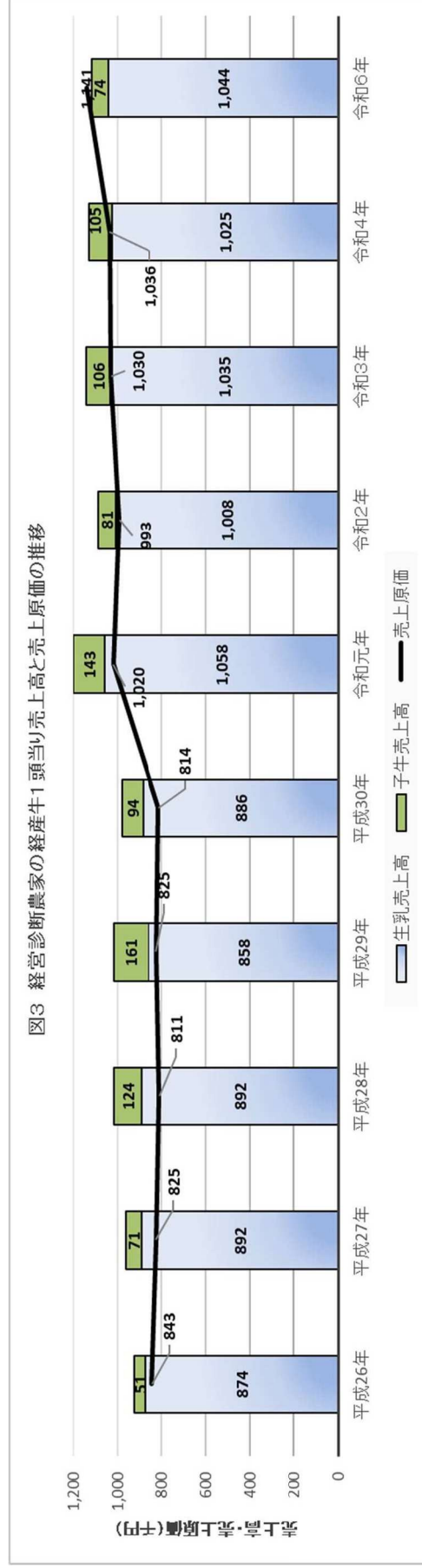
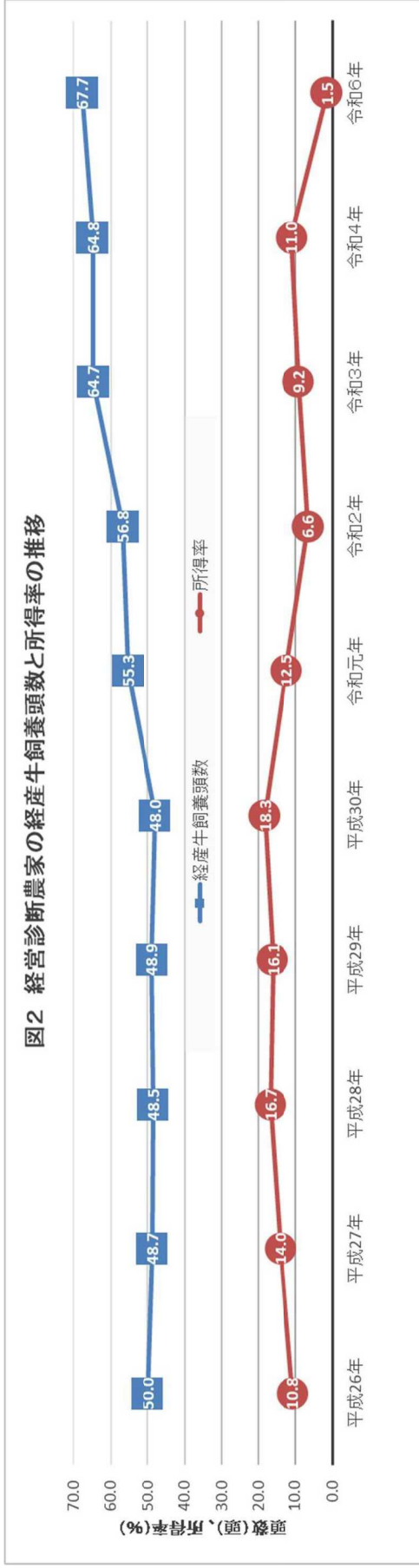
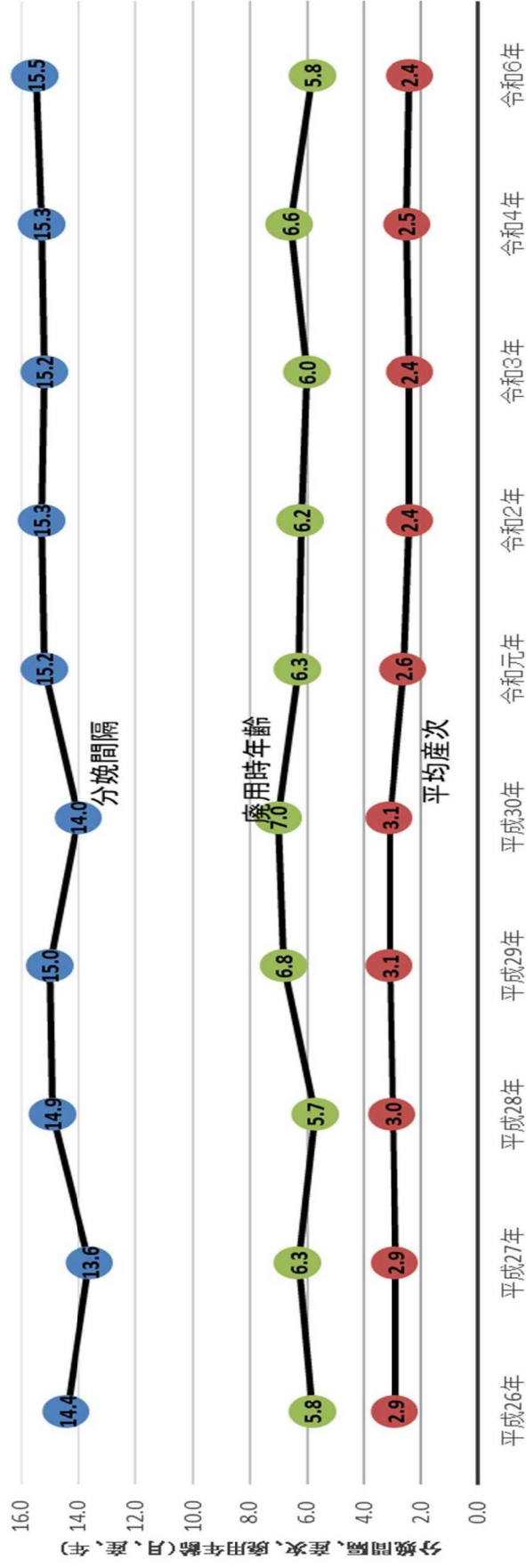


図4 経営診断農家の分娩間隔、産次、廃用年齢の推移



I 本県養豚の概要

本県の令和7年2月1日現在の子取り用めす豚は97,400頭で、うち黒豚は19,041頭で全体の19.5%を占めている。総飼養戸数は375戸(子取り用めす豚飼養戸数246戸、うち黒豚飼養戸数151戸)で、高齢化等から小規模経営が減少し、1戸当り飼養頭数は増加したものの、子取り用めす豚の飼養規模は横ばいで推移している。

また、豚肉の消費量は、平成27年以降増加傾向で、国内生産量も近年安定傾向で推移しており、令和7年の肉豚と畜頭数は2,508千頭で、うち黒豚は214千頭で全体の8.5%を占めている。一方、豚枝肉価格は令和7年度も引き続き堅調に推移し、コロナ前3年間の平均価格を上回っている。

このような養豚事情の中で、肉豚経営安定交付金制度(豚マルキン)の交付金は、平成25～令和7年度第1・2・3四半期までの発動はない。

II 経営診断方法

令和7年度における養豚経営の診断指導は、関係機関の協力により3事例(バークシャー種一貫経営3事例)を実施した。

経営診断指導は調査対象経営主から提出された決算書及び経営主からの聞き取り調査によりデータを収集し集計・分析を行った。

また、家族労働費の時間単価は1,937円、労働力人数は年間総労働時間÷2,000時間で算出、建物・機械等の減価償却費は定額法とし、種豚は流動資産扱いとした。

経営診断の調査期間は法人経営の会計期間とした。なお、費用の科目は(養豚経営)付表1 養豚経営診断における勘定科目を基準にして仕訳けた。

III 経営診断事例の概要

養豚の経営診断を実施したバークシャー種一貫経営について、令和3～4年度に診断を実施した4事例、令和5年度3事例及び令和6年度4事例、令和7年度3事例を対象に集計分析結果を要約した。

なお、各年度の事例数が少ないことから、データ活用にあたっては鹿児島県全体の状況を表していないことに留意すること。

表1 経営の規模

飼養頭数等	区分	単位	平均				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
種豚		雌	142.6	144.2	239.6	196.5	215.2
		雄	9.5	7.8	9.6	6.8	7.6
育成豚		雌	16.7	12.6	20.1	20.9	23.9
		雄	0.3	0.3	0.1	0.3	0.8
子豚(哺乳時)		—	184.1	195.8	358.7	298.6	330.6
		—	1,173.7	1,208.4	2,158.0	1,854.7	2,048.1
肥育豚		—	1,846	1,755	3,657	3,191	3,479
		—	66	53	103	56	53
肉豚出荷頭数		雌	6	6	6	3	4
		雄	3	3	3	2	2
種豚死亡廃用頭数		—	3	3	3	2	2
		—	3	3	2	2	2
家族従事人数		—	2.5	3.2	2.7	2.6	2.5
		—	5,273	6,382	5,380	5,170	4,980
うち養豚従事人数		—	0.7	1.5	4.9	4.5	6.3
		—	0.0	0.0	0.2	0.2	0.2
家族労働人数		—					
		—					
家族労働時間		—					
		—					
常時雇用人数		—					
		—					
臨時雇用人数		—					
		—					
労働投下状況		—					
		—					

表2 実績分析結果 (1)

区 分			単位	年度別平均					
				R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
規模	飼養規模(平均飼養頭数)	種雌豚	頭	142.6	144.2	239.6	196.5	215.2	
		種雄豚	頭	9.5	7.8	9.6	6.8	7.6	
		肥育豚	頭	1,174	1,208	2,158	1,855	2,048	
	出荷頭数	子豚	頭	—	—	—	—	—	
		肉豚	頭	1,846	1,755	3,657	3,191	3,479	
所得	所得総額		円	23,160,789	8,949,531	12,717,474	15,880,660	5,233,357	
	家族労働力1人当り年間所得		円	12,308,217	3,262,638	4,877,011	6,414,474	1,908,116	
	種雌豚常時1頭当り年間所得		円	160,896	68,242	80,432	79,248	65,721	
	肥育豚常時1頭当り年間所得		円	20,397	9,490	9,124	9,504	9,082	
	子豚出荷1頭当り所得		円	—	—	—	—	—	
	肉豚出荷1頭当り所得		円	12,631	5,654	6,122	5,460	4,890	
	所得率		%	22.4	10.3	9.6	8.7	7.3	
損益	種雌豚常時1頭当り	売上高	円	721,314	661,961	831,783	940,102	974,598	
		売上原価	円	576,141	635,229	829,627	872,738	901,010	
		購入飼料費	円	322,265	396,011	540,998	486,819	473,572	
		もと畜費	円	10,739	8,069	15,958	29,878	27,890	
		労働費	円	94,407	103,157	118,624	136,622	165,168	
		減価償却費	円	39,676	48,481	43,728	36,574	20,850	
		売上総利益	円	145,173	26,732	2,156	67,364	73,588	
		営業利益	円	62,528	-46,422	-79,024	-37,897	-11,954	
		経常利益	円	109,310	8,335	42,474	18,901	-4,477	
生産費用	肥育豚出荷1頭当り	生産原価	家族労働費含む	円	43,897	51,895	56,068	57,522	58,914
			家族労働費除く	円	39,762	46,906	53,200	53,117	53,765
			枝肉1kg当り	円	583	692	755	770	809
	その他費用	販売・一般管理費	円	6,483	7,260	5,645	6,945	5,552	
		営業外費用	円	183	693	298	638	519	
	総原価	家族労働費含む	円	50,563	58,486	62,011	65,105	64,984	
		家族労働費除く	円	46,428	53,497	59,143	60,700	59,835	
		枝肉1kg当り	円	671	780	834	872	893	
	投下労働	労働力1人当り種雌豚飼養頭数		頭	46.7	31.0	32.2	32.1	24.5
労働力1人当り肥育豚飼養頭数		頭	389.6	248.2	279.6	273.6	208.8		
種雌豚常時1頭当り労働時間		時間	46.7	65.8	62.5	66.1	88.5		
肥育豚常時1頭当り労働時間		時間	6.4	8.4	7.2	7.4	10.4		
子豚出荷1頭当り労働時間		時間	—	—	—	—	—		
肉豚出荷1頭当り労働時間		時間	3.7	5.4	4.3	4.4	6.1		
安全性	売上高対負債比率		%	45.8	56.3	60.1	70.2	36.7	
	自己資本比率(期末時)		%	47.6	36.3	37.6	39.8	42.4	
	売上対支払利息率		%	0.10	0.13	0.09	0.11	0.06	
	種雌豚1頭当り負債残高(期末時)		円	382,930	369,742	501,817	624,002	365,599	

表3 実績分析結果(2)

項目	単位	年次別平均						
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		
繁殖成績	種雄豚1頭当り種雌豚頭数	頭	22.1	25.4	24.9	28.8	28.4	
	母豚更新率	%	47.4	34.7	39.6	29.0	24.0	
	年間分娩腹数	腹	297	322	554	442	493	
	年間平均分娩回数	回	2.06	2.19	2.22	2.22	2.24	
	1 り腹 当	分娩頭数	頭	9.1	9.3	9.1	9.2	9.3
		哺乳開始頭数	頭	8.0	8.0	8.3	8.4	8.3
		離乳頭数	頭	7.3	7.4	7.8	7.8	7.7
	1種 り頭雌 当豚	分娩頭数	頭	18.8	20.2	20.2	20.5	20.9
		哺乳開始頭数	頭	16.4	17.5	18.4	18.6	18.5
		離乳頭数	頭	14.5	15.5	16.8	17.1	16.9
離乳時育成率	%	91.5	92.0	94.2	93.4	92.8		
離乳日令	日	29	29	29	30	30		
肥育成績	肥育もと豚繰入時体重	Kg	7	8	8	8	8	
	肥育もと豚繰入時日令	日	29	29	29	30	30	
	肥育もと豚繰入頭数	頭	2,113	2,293	4,177	3,498	3,832	
	肥育豚1頭当り出荷時体重	Kg	119	119	117	118	115	
	飼育日数	日	232	228	225	231	220	
	肥育日数	日	203	198	196	201	190	
	肥育回転	回	1.81	1.85	1.86	1.82	1.94	
	肥育豚1頭当り増体量	Kg	112	111	109	110	107	
	1日平均増体量(D・G)	g	551	563	559	547	570	
	種雌豚1頭当り肉豚販売頭数	頭	12.8	12.1	14.7	15.1	15.2	
	平均販売価格	円	54,896	53,948	56,134	61,622	63,771	
	平均枝肉重量	Kg	75.4	75.1	74.5	74.7	73.0	
	種雌豚1頭当り枝肉生産重量	Kg	957.7	904.4	1,089.6	1,121.6	1,109.1	
	枝肉単価	円	663	663	691	763	805	
	総出荷頭数	頭	1,846	1,755	3,657	3,191	3,479	
	上物率	%	55.3	60.2	39.6	34.8	55.3	
	中物率	%	22.5	19.3	35.1	43.5	37.5	
	並物率	%	17.2	16.6	19.6	16.7	6.0	
	格落率	%	4.1	3.6	5.6	5.1	1.2	
	肥育豚事故頭数	頭	277	353	465	544	337	
	対離乳頭数事故率	%	12.32	13.86	13.18	18.25	10.81	
	対常時頭数事故率	%	22.21	25.65	25.34	34.98	20.93	
	対出荷頭数事故率	%	14.12	18.37	15.27	21.02	12.39	
飼料要求率	%	3.08	3.12	3.30	3.38	3.35		
農場要求率	%	3.78	3.82	3.83	3.93	4.00		
飼料給与量	種豚1頭当り給与量	kg	930	969	974	952	1019	
	子豚1頭当りミルク給与量	kg	7.3	6.8	14.7	13.3	7.3	
	子豚1頭当りA段階給与量	kg	52.5	48.4	34.3	29.8	17.9	
	肥育豚1頭当りB段階給与量	kg	143.6	174.2	208.0	221.9	152.8	
	肥育豚1頭当りC段階給与量	kg	170.9	148.3	133.8	111.3	196.9	
	子豚・肥育豚1頭当り給与量	kg	374.3	377.7	380.7	380.5	374.9	
飼料給与額	種豚1頭当り給与額	円	44,037	61,920	71,581	73,542	71,129	
	子豚1頭当りミルク給与額	円	1,708	1,554	3,890	3,866	1,679	
	子豚1頭当りA段階給与額	円	3,031	3,441	2,861	2,342	1,316	
	肥育豚1頭当りB段階給与額	円	6,381	9,776	13,343	13,811	9,361	
	肥育豚1頭当りC段階給与額	円	8,579	9,206	9,313	7,907	12,843	
	子豚・肥育豚1頭当り給与額	円	19,698	23,978	29,407	27,926	25,200	

表4 当期生産費

(単位：円)

区 分	種雌豚1頭当り					肉豚1頭当り					
	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
購入飼料費	322,271	395,993	540,999	486,819	473,562	25,336	32,778	37,270	32,331	31,276	
もと畜費	10,739	8,068	15,958	29,878	27,890	832	663	1,043	2,086	1,885	
敷料費	0	45	30	0	1,409	0	4	2	0	109	
種付費	480	0	0	0	0	35	0	0	0	0	
労働費	家 族	51,573	59,904	37,958	60,347	70,201	4,135	4,989	2,868	4,405	5,148
	雇 用	42,832	43,247	80,665	76,275	94,965	3,257	3,440	5,050	4,605	6,092
	小 計	94,405	103,151	118,624	136,622	165,167	7,392	8,428	7,918	9,010	11,240
診療・医薬品費	45,933	44,364	48,399	61,994	82,313	3,626	3,652	3,305	4,051	5,528	
電気・電力費	22,829	21,589	29,534	24,122	30,889	1,798	1,780	1,986	1,578	2,069	
燃料費	9,351	14,323	12,676	11,062	12,075	724	1,156	855	725	778	
水道費	0	324	415	823	277	0	29	33	60	17	
減価償却費	建物・構築物	28,306	29,937	25,670	18,836	11,946	2,241	2,637	1,813	1,309	729
	機器具・車両	11,373	18,546	18,058	17,738	8,903	859	1,571	1,312	1,253	595
	家 畜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小 計	39,679	48,483	43,727	36,574	20,849	3,100	4,208	3,125	2,561	1,324
修繕費	16,489	13,820	16,269	29,607	46,716	1,289	1,118	1,105	2,031	2,879	
小農具費	2,568	2,935	1,892	2,016	2,065	194	261	131	136	140	
消耗諸材料費	10,699	7,824	14,927	18,856	20,977	808	641	977	1,249	1,313	
賃料料金その他	9,075	6,159	5,155	11,871	4,794	703	509	327	880	303	
当期生産費用合計	584,518	667,078	848,606	850,245	888,983	45,836	55,228	58,075	56,698	58,859	
期首飼養豚評価額	240,843	223,500	288,928	324,971	296,634	18,860	18,454	19,729	21,525	19,302	
期中種豚振替評価額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
期末飼養豚評価額	249,218	255,379	307,907	302,479	284,625	19,581	21,107	20,997	19,949	18,633	
廃用種豚販売収入	15,527	8,188	10,767	10,345	8,491	1,219	680	739	701	544	
副産物収入	0	0	0	787	1,184	0	0	0	51	72	
差引生産原価	560,617	627,012	818,860	861,606	891,316	43,897	51,895	56,067	57,522	58,913	
販売・一般管理費	82,648	73,149	81,181	105,261	85,539	6,483	6,079	5,645	6,945	5,552	
営業外費用	2,274	5,792	4,237	9,757	7,996	183	511	298	638	519	
総 原 価	645,538	705,954	904,278	976,624	984,851	50,563	58,486	62,010	65,105	64,983	
家族労働費除く "	593,965	646,049	866,319	916,278	914,650	46,428	53,497	59,142	60,699	59,835	

表5 損益計算書

(単位：円)

区 分		種雌豚1頭当り					肉豚1頭当り				
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
売上高	子豚販売収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	肉豚販売収入	705,782	653,733	821,016	928,971	964,902	55,158	53,948	56,134	61,622	63,771
	廃用種豚販売収入	15,527	8,188	10,767	10,345	8,491	1,219	680	739	701	544
	副産物収入	0	0	0	787	1,184	0	0	0	51	72
	計	721,308	661,921	831,783	940,103	974,577	56,378	54,629	56,874	62,374	64,386
売上原価	期首飼養豚評価額	240,843	223,500	288,928	324,972	296,634	18,860	18,454	19,729	21,525	19,302
	当期生産費用合計	584,518	667,078	848,606	850,247	888,983	45,836	55,228	58,075	56,698	58,859
	期中種豚振替評価額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	期末飼養豚評価額	249,218	255,379	307,907	302,480	284,625	19,581	21,107	20,997	19,949	18,633
	売上原価	576,143	635,200	829,627	872,739	900,991	45,116	52,575	56,807	58,274	59,529
売上総利益		145,165	26,721	2,156	67,364	73,587	11,261	2,053	67	4,100	4,858
販売費・一般管理費	販売経費	46,047	40,578	56,053	62,336	52,155	3,599	3,342	3,833	4,004	3,420
	保険料	12,211	10,848	8,948	15,073	7,679	963	929	668	1,079	533
	租税公課・諸負担	18,600	7,322	5,878	8,627	5,712	1,472	621	438	580	363
	事務費・その他	5,790	14,401	10,302	19,226	19,993	448	1,187	705	1,282	1,236
	計	82,648	73,149	81,181	105,262	85,539	6,483	6,079	5,645	6,945	5,552
営業利益		62,517	-46,428	-79,024	-37,897	-11,953	4,779	-4,026	-5,578	-2,844	-694
営業外収益	受取利息	59	8	81	64	98	4	1	5	4	6
	奨励金・補填金	23,718	32,236	78,116	49,799	9,386	1,900	2,726	5,298	3,268	584
	受取共済金	10,873	13,165	38,695	7,994	253	868	1,194	2,546	676	20
	種豚処分益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	14,408	15,138	8,843	8,699	5,736	1,126	1,282	614	590	345
	計	49,059	60,548	125,735	66,556	15,473	3,899	5,202	8,463	4,537	954
営業外費用	支払利息	597	823	711	1,055	573	46	71	54	70	36
	支払地代	0	0	4	561	780	0	0	0	30	47
	価格安定積立金	1,312	4,650	3,521	5,338	6,305	108	415	244	345	415
	種豚処分損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	365	319	0	2,804	339	29	25	0	193	20
	計	2,274	5,792	4,237	9,757	7,996	183	511	298	638	519
経常利益		109,302	8,328	42,474	18,901	-4,476	8,495	665	2,587	1,055	-259
特別利益(建物・機器処分益)		0	0	0	1,905	795	0	0	0	133	47
特別損失(建物・機器処分損)		0	0	0	1,068	0	0	0	0	90	0
当期純利益		109,302	8,328	42,474	19,738	-3,681	8,495	665	2,587	1,097	-211
当期	経常所得	160,875	68,232	80,432	79,248	65,726	12,630	5,654	5,455	5,460	4,890
	純所得	160,875	68,232	80,432	80,085	66,521	12,630	5,654	5,455	5,502	4,937

表6 貸借対照表

(単位：円、%)

(単位：円、%)

項 目	年度別平均											
	R3年度		R4年度		R5年度		R6年度		R7年度			
	期首	期末	期首	期末	期首	期末	期首	期末	期首	期末	期首	期末
資産の部	現金・預金	11,634,082	11,368,831	11,368,831	5,193,425	15,150,160	22,559,913	38,719,184	24,961,372	19,875,423	17,746,292	
	売掛金	555,229	605,328	605,328	897,809	2,208,381	4,492,280	4,340,568	3,508,698	3,868,283	3,225,017	
	未収金	1,346,269	1,068,570	1,068,570	1,530,620	3,019,361	6,298,812	4,826,988	1,825,121	2,405,350	2,100,388	
	家畜	34,715,522	35,412,651	33,105,029	38,084,657	74,306,211	78,633,381	67,964,199	63,876,072	69,786,659	64,249,692	
	飼料ほか資材	321,500	495,554	495,554	811,875	1,998,224	2,783,011	1,158,253	488,566	0	0	
	その他	3,858,803	7,253,836	7,253,836	5,718,703	5,321,984	6,869,419	9,672,104	9,098,319	2,214,048	974,664	
	計	52,431,404	56,204,769	53,897,148	52,237,088	102,004,321	121,636,817	126,681,296	103,708,148	98,149,762	88,296,054	
	建物・構築物	19,696,279	19,324,959	20,679,453	18,551,751	48,696,697	42,429,112	37,585,472	33,818,285	28,898,953	25,526,013	
	有形固定資産	6,274,146	8,325,756	8,188,352	7,487,768	10,626,994	9,027,268	15,477,836	12,626,765	14,182,078	12,337,228	
	家畜	0	0	0	0	0	0	0	0	71,248	0	0
土地	13,600,203	13,600,203	13,600,203	13,600,203	9,022,683	9,214,016	7,237,512	7,237,512	8,380,683	8,380,683		
その他	843,591	920,637	920,637	0	0	0	8,916,136	7,283,883	603,715	1,090,241		
計	40,414,218	42,171,554	43,388,645	39,639,721	68,346,373	60,670,396	69,216,956	61,037,693	52,065,429	47,334,164		
無形固定資産	0	0	0	0	0	0	422,382	355,159	0	0	0	
外部投資	566,261	597,460	597,460	630,732	1,401,167	1,573,384	1,524,163	1,654,723	1,897,000	2,123,333		
その他	549,599	635,549	1,556,186	1,928,446	10,123,718	8,359,293	28,569,602	31,077,574	8,394,475	7,259,232		
合計	41,530,078	43,404,563	45,542,290	42,198,899	79,871,258	70,603,072	99,733,103	94,125,148	62,356,904	56,716,730		
繰延資産	101,819	7,833	7,833	0	0	0	0	0	0	0	0	
資産合計	94,063,301	99,617,165	99,447,270	94,435,987	181,875,579	192,239,899	226,414,399	197,833,296	160,506,666	145,012,784		
負債の部	買掛金	8,486,242	7,938,628	7,938,628	12,843,425	28,254,785	27,604,543	21,498,462	16,387,127	18,449,638	19,224,812	
	未払金	4,986,106	4,079,264	2,526,063	3,720,423	2,159,889	2,860,016	6,076,493	5,013,583	6,084,428	5,532,318	
	短期借入金	0	0	0	0	0	0	0	2,500,000	0	0	
	その他	411,537	4,186,638	4,192,793	4,099,907	5,576,892	208,789	885,754	581,221	571,521	414,128	
	計	13,883,884	16,204,530	14,657,483	20,663,754	35,991,566	30,673,348	28,460,708	24,481,931	25,105,587	25,171,258	
	長期借入金	37,475,150	33,399,600	35,624,600	31,621,050	68,693,663	96,666,000	105,497,750	100,745,000	82,640,143	77,182,047	
	その他	58,968	29,484	835,220	1,576,687	921,956	1,670,348	523,599	3,825,575	0	0	
	計	37,534,118	33,429,084	36,459,820	33,197,737	69,615,619	98,336,348	106,021,349	104,570,575	82,640,143	77,182,047	
	負債合計	51,418,002	49,633,614	51,117,303	53,861,490	105,607,186	129,009,696	134,482,057	129,052,505	107,745,729	102,353,305	

項目		年度別平均											
		R3年度		R4年度		R5年度		R6年度		R7年度			
		期首	期末	期首	期末	期首	期末	期首	期末	期首	期末	期首	期末
資本の部	資本金	42,645,299	32,774,762	48,329,968	39,283,365	76,268,394	56,991,386	91,932,342	62,280,619	52,760,937	46,771,479		
	当期利益	0	17,208,789	0	1,291,131	0	6,261,474	0	6,500,172	0	-4,112,001		
	資本合計	42,645,299	49,983,551	48,329,968	40,574,496	76,268,394	63,252,860	91,932,342	68,780,791	52,760,937	42,659,478		
	負債・資本合計	94,063,301	99,617,165	99,447,270	94,435,986	181,875,579	192,262,556	226,414,399	197,833,296	160,506,666	145,012,784		
負債の状況	期首借入金残高	37,153,900		35,624,600		68,693,663		105,497,750		82,640,143			
	当期借入額	0		0		12,666,667		0		0			
	約定償還額	3,754,300		4,003,550		15,360,997		4,752,750		5,458,095			
	実償還額	3,754,300		4,003,550		15,360,997		4,752,750		5,458,095			
	期末借入金残高	33,399,600		31,621,050		65,999,333		100,745,000		77,182,047			
	期首借入金残高	0		0		0		0		0			
	当期借入額	0		0		0		0		0			
	約定償還額	0		0		0		0		0			
	実償還額	0		0		0		0		0			
	期末借入金残高	0		0		0		0		0			
	借入金合計	37,153,900		35,624,600		68,693,663		105,497,750		82,640,143			
	当期借入額	0		0		12,666,667		0		0			
約定償還額	3,754,300		4,003,550		15,360,997		4,752,750		5,458,095				
実償還額	3,754,300		4,003,550		15,360,997		4,752,750		5,458,095				
期末借入金残高	33,399,600		31,621,050		65,999,333		100,745,000		77,182,047				
分析結果	当座比率	76.2	66.1	69.8	30.2	48.2	106.8	183.0	164.7	104.4	93.1		
	流動比率	394.7	472.4	483.0	268.7	317.4	411.5	480.1	630.2	393.9	367.5		
	固定比率（自己資本）	116.3	95.5	124.8	152.3	113.9	114.8	119.9	131.2	96.6	130.2		
	固定資本（長期資本）	55.3	52.8	54.4	61.1	57.4	48.2	52.2	53.2	40.5	43.4		
	自己資本比率	41.8	47.6	44.1	36.3	42.0	37.6	40.9	39.8	43.3	42.4		
	1頭当り借入金残高	250,776	224,391	212,481	213,048	372,982	402,646	546,937	487,694	300,311	257,451		
売上高対負債比率	46.8	42.8	33.0	33.0	44.5	54.7	72.8	70.2	39.2	36.7			

付表1 養豚経営診断における勘定科目

区分	勘定科目	取引内容
収 益	堆肥販売・交換	
	奨励金・補填金	飼料補てん金、飼料奨励金、肉豚補てん金、ワクチン助成、助成金など
	受取利息	
	その他養豚部門収入	事故補償金、共済組合受取共済金など
費 用	購入飼料費	購入飼料費、飼料添加物など
	もと畜費	外部から導入した子豚(肥育もと豚)、育成豚
	敷料費	オガコ、もみがらなど
	種付料	精液代、授精料、授精技術料、授精に関する消耗品
	雇用労賃	雇用労賃、賄い費、交通費、ヘルパー料金
	診療・医薬品費	治療・薬品、消毒薬、衛生資材、ワクチン代
	電気・電力費	電気料
	燃料費	軽油、ガソリン、重油、ガス
	水道費	
	修繕費	
	小農具費	10万円未満の農機具
	消耗諸材料費	生産資材に係る消耗品
	賃料料金・その他生産資材	登記・登録料、機械リース料、証明書料、検査料、死亡畜処理料
	販売経費	と畜手数料、販売手数料、出荷運賃
	保険料	家畜共済掛金、事故補償掛金、農機具保険料、畜舎保険掛金、互助事業積立金
	租税公課・諸負担	固定資産税、農地取得税、自動車税、印紙税、組合・部会費、畜政資金、各会費、賦課金、支払消費税
	事務費・その他	作業服、研修費、振込手数料、接待交際費、事務用品、電話料、新聞図書費、税理士費用、支払手数料
	支払利息	借入金利息、延滞利息
	支払地代	農地借地料
	価格安定積立金	肉豚価格安定積立金、飼料価格安定積立金
その他養豚部門支出	交通費、債務保証料	



経営改善に寄与する 畜産コンサルタントの役割

—鹿児島県における経営診断を例に—



(公社)鹿児島県畜産協会 古川 淳

背景と課題認識

近年、社会を取り巻く環境は劇的に変化しており、畜産経営に関しても例外ではなく、この変化にしっかりと対応していかなばならない。物価高騰（生産資材費の上昇）や労働賃金の上昇により、生産コストは過去に例をみない水準に達している。一方、それら上昇した生産コストを回収できるほどの価格転嫁（売り上げ）は見込めない中、これまであまり発生がなかった疾病対策など、さらなるコストも必要となっている。

衛生面においては、「飼養衛生管理基準」の遵守、さらには農場HACCPの推進により飼養衛生管理の徹底を図り、食品としての畜産物の安全性を確保しなければならない。労働力でいえば、IoT等を活用した最新の機械装置で削減が可能な時代となったが、それなりの初期投資やランニングコストが必要となるケースもあるほか、蓄積されたデータの活用方法や自らの経営に真に必要な機械装置であるかを判断していくことが重要である。このような状況に柔軟に対応し、経営を維持・発展させるためには、経営の課題点をしっかりと把握し、経営の向上・改善に生かすことが必要である。

経営改善を行うには、まず経営者が経営内容をどれだけ理解できているかが重要となる。経営改善が必要ということは、①所得が伸び悩んでいる、②生産コストが高い、③負債が多い、④投資が多いなど、さまざまな要因が考えられるが、まずは自らの経営状況を数値的に把握することが必須である。数値があつてはじめて課題解決に取り組むことが可能となる。

このため、本会では、経営診断（コンサルタント事業）を通じて経営の実態を正しく把握するため、経営実績の結果を数値化し、経営の収益力や財政状況を経営者に示し、今後の経営の運営・管理に有効な方策を提示している。

経営診断の目的と改善指導

経営診断とは、経営の運営・管理が適切であるかどうかを分析・検討し、具体的な助言・指導を行うことを通じて、経営者が今後の経営方針を決定するための材料を提示することである。それによる最終的な経営方針の判断は経営者自らがを行い、畜産コンサルタントはその後のフォローアップを担うこととなる。

経営は継続性を有するものであるため、過去の実績から現在の実態を分析・把握するこ

(図1) 主な改善方法と注意点

- (1) 規模益が小さい → 規模拡大を図る
土地・労働力・資本に余裕があるかを確認し、調達可能性を検討した上で規模拡大を図る。
- (2) 単位当たり生産量が少ない → 生産量の増大を図る
規模拡大と単位当たり生産量の増加を目指す。繁殖成績や事故率、飼料給与方法など、生産量の増減する要因ごとの数値を比較検討し、生産量の増加を図る。
- (3) 販売単価が安い → 販売単価を高める
商品性や肉質などに関係する要因を検討し、販売単価の引き上げを図る。
- (4) 経営費が大きいの → 経営費の節減を図る
単位当たりの費用別金額を比較検討し、経営費の節減を図る。
- (5) 自己資本利子・自作地代が大きいの → 投資の適正化と省力化を図る
自作地の評価は適正か、建物や機械等の資産が過剰投資となっていないかを確認する。
単位当たり投下労働時間や雇用の割合、作業別労働時間を検討し、省力化を図る。

とで将来計画の基礎となるデータを提供し目標設定を検討する。これらを毎年繰り返すことで経営の安定および発展が可能となる。

とりまとめた当該年の経営実績を前年成績や地域平均と比較することにより、自らの経営の現状を客観的に把握することが可能となり、実績に基づいたより具体的な計画作成が実施できる。

経営診断では、生産技術的側面と経営管理的側面の二面性から経営を捉え、技術改善と収益性の関係を把握し、技術改善が収益性の向上にどのように結びついているかを明確にしている。

経営診断における経営の課題と原因別の改善方法について、主なものを図1に整理した。

本県の経営診断の実態

本年度における本県の経営診断件数は約70件を予定しているが、件数は近年増加傾向にある。経営指導の基本は集団指導であり、総括畜産コンサルタントを中心に、県出先機関(地域振興局・家畜保健衛生所)、市町村、JA、融資機関などと連携して実施し、本年は12月をめどに調査・報告を終了することとしている。

分析・診断を行うためには、経営の実態お

よび実績を把握する必要がある。これらのデータは経営者自らが日々記録・記帳されたものを活用している。入手したデータを基に、畜産に関する収入および支出から当期生産費を算出し、損益計算書を作成する。損益計算書を確認することで、どの活動で収益を得ているか、どの程度の費用がかかっているかを把握できる。さらに、常時1頭当たりや出荷1頭当たりの収益・費用を算出することで、他経営との比較が可能となり、自経営の強み・弱みを明確にすることができる。算出した生産費の合計から、費目ごとの経費全体に占める割合を把握することで、経費節減の検討材料としている。経費に占める割合が高い費目は、飼料費、労働費、減価償却費であり、特に自給飼料費は収益に大きく影響する要因である。

また、貸借対照表を作成し、資金の調達方法と使用状況を確認している。分析結果として、当座比率や固定比率などを算出し、常時1頭当たりの資金借入残高、年間借入金償還負担額、施設・機器平均投資額を示すことで資金繰りや設備投資に無理がないかを確認し、経営の安全性を経営者に示している。

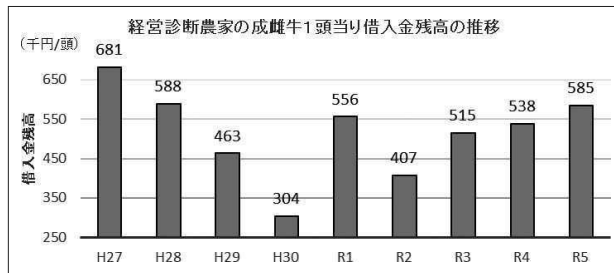
本会では、経営指導の参考資料とするため毎年の経営診断結果について、分析結果の概

要とともに、集計し、結果集積としてとりまとめている。この結果集積には、生産費用、損益計算書、貸借対照表の集計値が掲載されており、地域（県）の比較値として活用されている（表1・2、図2）。

経営診断からみる資金管理

運転資金とは、事業を継続するために恒常的に必要な資金であり、適切に手当てされて

（図2）経営診断農家における借入金残高の年次別推移



注) 畜産経営診断結果集積（肉用牛繁殖経営）より作表

（表1）原価別、規模別の生産費用（成雌牛常時1頭当たり）
（単位：円、%、頭）

費目	総原価の最も低い事例	総原価の最も高い事例	成雌牛頭数規模別		
			30頭未満 n=5	30~59頭 n=15	60頭以上 n=9
種付料	23,912	28,897	26,113	22,637	21,303
もと畜費	91,824	0	0	17,475	4,321
購入飼料費	207,231	248,852	211,953	208,753	238,007
自給飼料費	7,508	25,637	23,302	19,513	22,127
敷料費	4,553	3,446	1,637	3,515	6,649
労働費					
雇用労働費	1,387	1,408	6,697	2,194	15,386
家族労働費	186,496	434,865	305,158	157,436	100,639
計	187,883	436,273	311,855	159,630	116,025
診療・医薬品費	6,963	26,673	18,508	16,019	27,751
電力・水道費	4,222	4,725	5,965	9,608	9,939
燃料費	3,262	22,635	19,454	14,177	12,542
減価償却費					
建物・構築物	0	32,995	17,046	17,565	15,980
機器具・車輛	3,539	42,816	31,318	37,979	33,819
家畜	12,399	56,722	69,074	59,954	63,104
計	15,938	132,534	117,438	115,498	112,903
修繕費	6,868	24,741	25,247	24,063	22,859
小農具費	1,116	2,233	5,234	3,391	2,491
消耗諸材料費	1,359	8,627	6,612	8,637	13,646
賃料料金・その他	19,659	5,963	11,199	9,810	21,089
当期生産費用合計	582,296	971,236	784,518	632,727	631,651
期首飼養畜評価額	23,757	177,762	111,125	107,048	112,470
期中成牛振替額	78,400	0	29,628	46,298	43,675
期末飼養畜評価額	73,836	261,212	140,927	98,117	113,261
生産原価	453,818	887,786	725,088	595,360	587,185
販売一般管理費					
販売経費	12,700	13,281	8,908	19,700	20,147
保険料	27,159	4,981	20,793	23,286	24,680
租税公課・諸負担	1,901	4,157	7,084	12,190	10,279
事務費・その他	5,964	29,578	16,040	10,764	11,867
計	47,724	51,996	52,825	65,939	66,972
営業外費用					
支払利息	0	3,684	3,823	4,408	4,187
支払地代	0	8,914	7,529	5,434	3,966
価格安定積立金	0	404	302	537	580
成牛処分損	3,729	0	0	5,283	5,654
その他	0	0	0	465	656
計	3,729	13,003	11,655	16,128	15,042
総原価	505,270	952,784	789,568	677,427	669,200
うち家族労賃除く	318,774	517,919	484,410	519,991	568,561
成雌牛平均飼養頭数	51	27	26	45	112

注) 畜産経営診断結果集積（令和7年3月、(公社)鹿児島県畜産協会）

（表2）所得別、規模別の損益計算書（成雌牛常時1頭当たり）
（単位：円、%、頭）

科目	所得の最も高い事例	所得の最も低い事例	成雌牛頭数規模別		
			30頭未満 n=5	30~59頭 n=15	60頭以上 n=9
売上高					
子牛販売収入	588,974	359,874	424,541	399,400	434,888
育成牛販売収入	0	0	0	0	0
肥育牛販売収入	0	0	0	1,643	5,311
その他	8,697	0	1,739	1,934	489
計	597,670	359,874	426,281	402,977	440,687
売上原価					
期首時評価額	177,762	184,166	111,125	107,048	112,470
当期生産費用合計	971,236	611,095	784,518	632,727	631,651
期中成牛振替額	0	113,602	29,628	46,298	43,675
期末時評価額	261,212	82,636	140,927	98,117	113,261
売上原価	887,786	599,024	725,088	595,360	587,185
売上総利益	-290,115	-239,149	-298,808	-192,383	-146,498
販売一般管理費					
販売経費	13,281	12,755	8,908	19,700	20,147
保険料	4,981	27,750	20,793	23,286	24,680
租税公課・諸負担	4,157	23,609	7,084	12,190	10,279
事務費・その他	29,578	8,736	16,040	10,764	11,867
計	51,996	72,849	52,825	65,939	66,972
営業利益	-342,111	-311,999	-351,633	-258,323	-213,470
営業外収益					
受取利息	0	0	0	0	4
奨励金・補填金	62,605	62,302	72,139	52,193	56,189
成牛処分益	59,126	2,473	27,775	19,311	19,390
その他	24,390	2,871	19,028	12,322	18,586
計	146,122	67,646	118,942	83,826	94,169
営業外費用					
支払利息	3,684	11,412	3,823	4,408	4,187
支払地代	8,914	315	7,529	5,434	3,966
価格安定積立金	404	1,145	302	537	580
成牛処分損	0	0	0	5,283	5,654
その他	0	5,147	0	465	656
計	13,003	18,018	14,569	16,128	15,458
経常利益	-208,992	-262,371	-255,410	-190,624	-133,042
特別利益	0	0	0	0	0
特別損失	0	0	0	0	0
当期純利益	-208,992	-262,371	-255,410	-190,624	-133,042
経常所得	225,873	-196,076	67,796	-33,188	-32,403
当期純所得	225,873	-196,076	67,796	-33,188	-32,403
成雌牛平均飼養頭数	27	56	26	45	112

注) 畜産経営診断結果集積（令和7年3月、(公社)鹿児島県畜産協会）

いる場合は資金繰りが円滑に行われていると判断できる。収入の範囲内で支出が賄われている状況であるが、農協の営農勘定や営農ローンといった便利な制度が存在するため、資金管理が軽視される傾向がある。その結果、経営者に残高を確認しても正確に把握していない場合が多い。これらの制度は確かに利便性が高いが、最終的には自身の負債であるため、残高を正確に把握し、貸越による利息発生の可能性を認識する必要がある。本会では、融資機関と連携しながら、これらの点について経営者への指導を行っている。

資金調達についても、経営の安定性を確認しながら慎重に行う必要がある。投資額についても、過剰投資とならないよう十分な検討が求められる。借入金の償還額を正確に把握していない経営者に対しては、償還予定表を作成し、償還金額を提示することで、経営計画書作成の検討材料として活用している(表3)。

畜産リノベ資金等の経営改善指導

経営診断業務と同様に、畜産リノベ資金の

(表3) 借入金の償還計画表

(1)長期借入金		調査期間 R6.1.1 ~ R6.12.31				(単位:円)		
区 分	〇〇資金	〇〇資金	〇〇資金	〇〇資金			畜産部門計	
融資機関	JA鹿児島	JA鹿児島	薩摩銀行	薩摩銀行				
借入金額	30,000,000	5,000,000	13,500,000	4,000,000			52,500,000	
借入年月日	H31.2.5	H28.4.25	R5.11.1	R6.11.30				
使途	堆肥舎	牛舎	運転資金	牛舎				
償還期限	R9.4.5	R28.4.23	R9.11.30	R31.11.25				
据置期間								
支払利率	0(14.5)	1.10(14.5)	5.0(14.0)	1.2(14.0)				
期首元金残高	23,250,000	11,693,647	13,500,000	4,000,000			52,443,647	
当期	元金償還額	3,000,000	464,485	675,000	0		4,139,485	
	支払利息	0	126,287	565,890	0		692,177	
期末元金残高	20,250,000	11,229,162	12,825,000	4,000,000			48,304,162	
負担割合	100	100	100	100			—	
当該部門	期首元金残高	23,250,000	11,693,647	13,500,000	4,000,000		52,443,647	
	元金償還額	3,000,000	464,485	675,000	0		4,139,485	
	支払利息	0	126,287	565,890	0		692,177	
	期末元金残高	20,250,000	11,229,162	12,825,000	4,000,000		48,304,162	
償還計画	令和7年	元金	3,000,000	469,623	675,000	0		4,144,623
		利息	0	121,149	641,250	32,000		794,399
	令和8年	元金	3,000,000	474,804	675,000	0		4,149,804
		利息	0	115,968	607,500	32,000		755,468
	令和9年	元金	14,250,000	479,985	11,475,000	0		26,204,985
		利息	0	110,787	573,750	32,000		716,537
	令和10年	元金		485,166		200,000		685,166
		利息		105,606		32,087		137,693
	令和11年	元金		490,347		190,000		680,347
		利息		100,425		30,400		130,825

審査（ヒアリング）においても、経営改善および資金調達に関する指導を行っている。以下に、本県の事例を参考として記述する。

畜産リノベ資金の借入者は、経営改善計画書を作成し、計画と実績を毎年度比較することで、償還状況および計画の進捗状況を確認している。本県においては、見直し期間を大家畜については20年、養豚については15年に設定している。例年7月に地域ヒアリングを実施し、対象者全員に対して聞き取りを行っている。8～9月に県ヒアリングを実施し、県（出先機関含む）、融資機関（金融・指導）、融資機関（金融・指導）、市町村、関係団体が出席し、改善計画の妥当性を検討している。

本会では、借入者支援協議会の構成員として総括畜産コンサルタントを派遣し、経営改善計画の達成状況や新規借入者の計画の妥当性を確認しながら指導している。計画と実績の乖離にはさまざまな要因が考えられるため、その要因を確認し、今後の改善計画に適切な改善策が盛り込まれているか、計画に無理がないかなどを経営・技術の両面から検討している。最終的には、償還財源が確保できるかを確認することが重要である。なお、県によるヒアリング時は経営者本人は参加していないが、改善計画を説明する融資機関が対象経営をどの程度把握しているか、ヒアリングで指摘された事項が翌年にどのように反映されているかなど、融資機関の管理・指導体制を把握する機会ともなっている。指摘事項に対して融資機関の体制を支援することも畜産コンサルタントの重要な役割である。

おわりに

これまで述べてきたとおり、畜産経営が直面する課題は多様化しており、生産コストの

増加や資金管理の不徹底が経営に大きな影響を与えている。これらの状況に対応するためには、畜産コンサルタントが中心となり、経営指導の特徴でもある集団指導の中核的存在として、各種専門家と連携しながら課題の把握、抽出、計画策定、フォローアップまでを継続的に実施することが求められる。

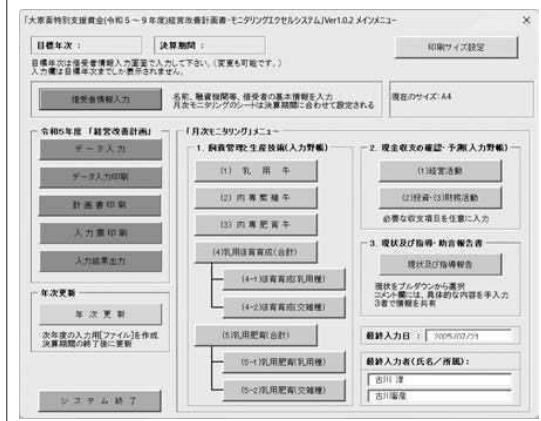
畜産コンサルタントは、経営者とともに課題に向き合い、経営のレベルアップを支援する役割を担っており、その責務を果たすべく不断の努力を続けていかなければならない。

参考：経営状況の支援ツール

中央畜産会が提供する畜産リノベ資金用の経営改善計画書を活用する方法も有効である。（中央畜産会ホームページ→畜産関係情報→畜産特別資金に関する情報→経営改善計画書・モニタリングエクセルシステム）

セットアップマニュアルや操作説明書も用意されており、活用を推奨する。

このシートには技術面、経営面、資金管理、家計費関連の費用を入力することで、今後の経営計画を把握することが可能となっている。



（ふるかわ じゅん・(公社)鹿児島県畜産協会 事業部 事業一課 調査役／総括畜産コンサルタント）



受賞のことば

“子どもたちの未来のために この地域の畜産の未来のために” みんなで力を合わせて挑戦を続けていきます

鹿児島県霧島市 (株)窪田畜産

令和7年度全国優良畜産経営管理技術発表会において、農林水産大臣賞・最優秀賞という、身に余るほどの大きな賞をいただきました。このような素晴らしい評価を頂戴できたこと、支えてくださった皆さまへの感謝で胸がいっぱいです。本当にありがとうございます。

私たち夫婦は、これまでの道のりを6人の子どもたちと共に歩み、その存在に励まされながら今日まで進んでまいりました。“子どもたちの未来のために、この地域の畜産の未来のために”——その思いが、いつも私たちの背中を押し続けてくれています。

今回の受賞を大きな力に変え、これからも技術の向上や経営改善にまっすぐ向き合い続けます。そして、「窪田牛」というブランドをもっと多くの方に知っていただけるよう、さらには霧島市で一番の生産基地と呼ばれる存在になれるよう、家族も従業員も関係者も、みんなで力を合わせて挑戦を続けていきます。

一人ではできないことも、みんなでなら、必ず成し遂げられると信じています。これからも温かいご支援とご指導をいただけますようお願い申し上げます。



家族一体で突き進む ポジティブ肉用牛経営

—人と牛をハッピーにしたい—



農林水産大臣賞／(株)窪田畜産 (肉用牛一貫経営・鹿児島県霧島市)
(公社)鹿児島県畜産協会 坂本 ひとみ

経営・活動の推移

窪田畜産は、昭和57年に現代表の敏氏の父である繁氏が現在の霧島市郡田地区で成雌牛10頭の飼養を開始し、平成7年には叔父の豊氏が同地で肥育経営を開始した。平成17年、敏氏本人が妻の加奈子氏とともに鹿児島県立農業大学校を卒業、海外研修を経て就農した。平成19年、成雌牛50頭規模になったところで独立し、その後、それぞれが規模拡大してきた。増頭に伴い、母牛、子牛の疾病や事故が増加したことから、関係機関の助言指導により農場HACCPに取り組んだ。平成29年3月には推進農場の指定を受け、衛生管理の徹底や作業マニュアルを整備し飼養管理の斉一化が図られ、事故率が減少し生産率が向上した。

成雌牛が300頭規模にまで増頭した平成30年、3人(繁、豊、敏)の経営を統合し、現在の(株)窪田畜産を設立した。設立にあたっては、地域において法人化に携わった経験のある識者がいなかったことから、敏氏が孤軍奮闘で書類整備を行った。法人化により、それぞれが単独で行っていた経営管理が一本化され、飼料作物栽培や出荷計画、疾病対策なども統一、構成員が自身の役割に集中し生産性が向上した。



(写真1) 農場全景



(写真2) ゆったりとした子牛舎

令和2年2月以降、新型コロナウイルス等の影響により、鹿児島県においても子牛価格が下落し、さらに配合飼料価格の高騰の影響もあり、繁殖経営の収益性が悪化した。そのような状況下でも、窪田夫妻の持ち前のポジティブ思考から、牛舎の改修等を低コストで行い、母牛の増頭を図ってきた。また、それまで発育不良の子牛を肥育して出荷していたところ、産肉成績が良好だったことから、肥育牛の割合を増やすとともに、牛肉・加工品

販売を本格的に事業化することで、収益性の改善に成功している。現在、成雌牛約450頭、肥育牛83頭を飼養している。

経営・技術の特色等

(1) 経営の特色

家族経営のメリットを生かし、構成員、従業員の得意分野を踏まえた役割分担をしている。また、必要に応じて大型農業機械やICTを導入し、妊娠牛の放牧技術など積極的に取り入れることで、省力化を図りながらも規模拡大を実現している。また、発育不良子牛の肥育に加え、経産肥育にも取り組み、食肉・加工品販売部門の拡充により、情勢に柔軟に対応しながら所得向上を成し遂げている。

(2) 技術の特色 ①衛生管理の徹底

増頭に伴い、母牛、子牛の疾病や事故が増加していたため、関係機関の助言により平成29年3月に農場HACCP推進農場の指定に取り

組んだ。衛生管理の徹底やマニュアルの整備による作業の斉一化により生産率が向上した。

(3) 技術の特色 ②先進技術の積極導入

肉用牛の規模拡大に伴い、自給飼料の作付面積も拡大してきた。平成30年には作業の効率化、省力化を図るため、トラクターを大型化するとともに、不耕起播種機やフロントモアコンディショナなどの最先端の機械を導入した結果、作業時間は従来の半分となった。

また、多頭化に伴い、令和2年には哺乳ロボットに加え、子牛個々の状態に合わせてミルクを供給できるミルクモービルを導入し、省力化と子牛の商品性向上を図っている。

スマート農業にもいち早く取り組み、分娩通知システムや首輪型センサーを用いた発情発見システム、分娩兆候監視カメラシステムなどを積極的に取り入れ、繁殖管理の省力化を図りながら生産率の向上を達成している。

さらに、日ごろの作業の連絡調整にSNSを活用し、従業員間で牛の疾病などの情報共有を図り、早期に対応することで、急激な増頭にもかかわらず、子牛生産率、出荷率を維持し、市場平均価格並みの価格で売り上げている。

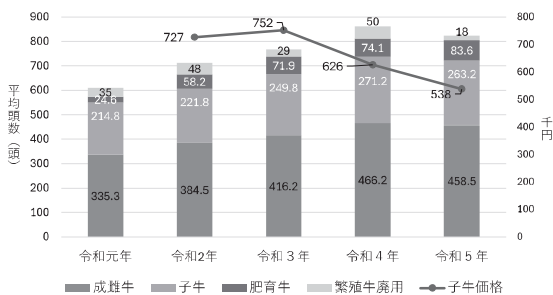
(4) 技術の特色 ③景気変動に負けずに規模拡大！

生産コストの上昇に加え、子牛価格が低迷する中、牛舎の整備・補修等を自分たちで行いながらコストの圧縮を図り、成雌牛・肥育牛ともに増頭している。また、発育不良子牛、

(表1) 窪田畜産の役割分担

名前	関係	主な役割
敏(サトシ)	経営主	経営総括
加奈子(カナコ)	妻	経営補佐、6次産業化、広報
繁(シゲル)	父	飼料生産、施設整備・改修
敏和(トシカズ)	弟	繁殖牛管理、人工授精
豊(ユタカ)	叔父	肥育牛管理
航(ワタル)	従兄弟	加工・販売担当
和希(カズキ)	従兄弟	飼料生産、施設整備・改修

※子牛哺育・育成:雇用2名(女性)、ふん尿処理:雇用1名(男性)



(図1) 飼養頭数の推移



(写真3) AIによる分娩検知



高産歴母牛などを肥育に仕向けることにより付加価値を高めるなど、所得向上に積極的に取り組んでいる。困難な状況にも諦めず立ち向い、工夫と努力で成果を上げる姿勢は、経営方針である「ピンチはチャンス!! ここを乗り越えると未来は明るい!今できることをきっちりやって現状を乗り越える」精神で、地域の畜産農家にとっても大きな励みとなっている。

(5) 技術の特色 ④妊娠牛の放牧管理

成雌牛の増頭に伴い、自己所有の草地・山林を放牧地として開拓し、常時15頭の妊娠牛を放牧している。放牧期間は、妊娠鑑定後から分娩の1ヵ月前までとし、牛舎での過密状態を解消するとともに、ゆったりとした環境でストレス無く飼養することができている。

地域に対する貢献

(1) 牛肉・加工品販売の拡大

経営理念に「自然と命の恵みに感謝し人と牛を幸せにする!」を掲げみんなで協力し、感謝の気持ちを忘れず、命を大切に、家族、地域、関わる全ての人をハッピーにする精神で取り組んでいる。令和7年8月下旬、夫婦二人の夢であった直営店をオープンさせ、地域にハッピーを届ける挑戦が始まった。

(2) 地域ブランドとしての貢献

窪田畜産が生産する「窪田牛」は霧島市、霧島市商工会議所等が参画する霧島ガストロノミー推進協議会が行う「ゲンセン霧島」の2023年度の6ツ星認定品に認定されている。

(3) 後継者の育成

毎年、地元農業高校生、農業大学生の長期宿泊研修や国、県職員等の短期技術研修に協力し、後継者の育成に尽力している。「研修生は常に受け入れたい」と考えており、地域に根ざした人材育成への熱意が感じられる。

女性の活躍・働きやすい 職場環境づくりの取り組み

加奈子氏は始良地域(霧島市、始良市、湧水町)の和牛を飼養する生産農家の女性が令和2年に設立した「始♥LOVE和牛女子」の主要メンバーとして、生産者同士の技術を高めるための研修や、黒牛を消費者に知ってもらうための活動、子供たちへの出前授業など多岐にわたる活動に積極的に参加している。

令和5年には全国で展開する農業女子プロジェクトの鹿児島県代表を務め、地域の仲間とともに女性が働きやすい環境づくり、女性農業者グループの活動支援などに尽力している。令和7年6月、鹿児島県で開催された「全国モーモー母ちゃんの集いinかごしま」では、プロジェクトメンバーとして体験発表を行い、自社のポジティブな経営をアピールした。持ち前の元気さと明るさ、何事にも前向きに真摯に取り組む姿勢は、家族はもちろん周りの人たちを笑顔にさせ、「ポジティブで人をハッピーにする力」を存分に発揮している。

将来の方向性

当面は、頭数を大幅に増やすことはせず、自分たちの目の行き届く範囲(成雌牛500頭)で徹底した飼養管理を行い、分娩間隔の短縮や生産率の向上、さらに6次産業化の展開による付加価値創出を推進するために、自営販売店や直販チャンネルの整備を通じて、増収を図っていく予定である。

将来は繁殖800頭・肥育1,000頭規模の一貫経営体制を確立し、相場変動に影響を受けない持続可能な企業づくりを目指されており、期待している。
(さかもと ひとみ・(公社)鹿児島県畜産協会 総務部 総務課 課長代理(調査役))